

子供のキャリア観と 親の働く姿に関する調査 (小学校5-6年生編)

株式会社アイDEM

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10 アイDEM本社ビル

お問い合わせ

広報担当 / 望月・栗木
調査担当 / 岸川・古橋

電話 03-5269-8780

kouhousitu@aidem.co.jp

目次

	調査概要		p. 3
1	大人調査	親の労働時間	p. 4
2	大人調査	親の年収	p. 5
3	大人調査	父親の仕事の充実度	p. 6
4	大人調査	母親の仕事の充実度	p. 7
5	大人調査	家族揃っての食事回数	p. 8
6	大人調査	子供との会話時間	p. 9
7	子供調査	父親との会話量	p. 11
8	子供調査	母親との会話量	p. 12
9	大人調査	家族との会話の内容	p. 13
10	子供調査	父親の仕事を知っているか[有職者]	p. 14
11	子供調査	母親の仕事を知っているか[有職者]	p. 15
12	大人調査	配偶者の仕事を知っているか	p. 16
13	子供調査	父親の働く姿を見たことがあるか	p. 17
14	子供調査	母親の働く姿を見たことがあるか	p. 17
15	子供調査	働く父親は楽しそうか	p. 18
16	子供調査	働く母親は楽しそうか	p. 19
17	子供調査	働く父親を「すごい」と思うか	p. 20
18	子供調査	働く母親を「すごい」と思うか	p. 22
19	子供調査	働く父親への憧れ	p. 24
20	子供調査	働く母親への憧れ	p. 26
21	子供調査	将来働くことは楽しみか	p. 28
22	子供調査	将来の夢はあるか	p. 30
23	大人調査	子供に将来なってほしい職業はあるか	p. 32
24	子供調査	将来なりたい職業	p. 33
25	大人調査	子供に将来なってほしい職業	p. 33
26	子供調査	将来その職業になりたい理由	p. 34
27	子供調査	将来なりたい職業に就くための努力	p. 35
28	大人調査	家庭で行なっているキャリア教育	p. 37
29	大人調査	親の働く姿を見せることの是非	p. 38

調査概要

調査目的

親の働く姿と子供のキャリア観への影響について調査する

調査対象

小学校5年生または6年生の子供を持つ男女で、子供と一緒にアンケート回答が可能な者

調査方法

インターネット調査

調査期間

2018年6月14日～17日

有効回答

1308名

回答者内訳

大人/性別	n	%
男性（父親）	769	58.8
女性（母親）	539	41.2
計	1308	100.0

大人/婚姻状況	n	%
既婚	1243	95.0
未婚・離別・死別	65	5.0
計	1308	100.0

子供/性別	n	%
男子	680	52.0
女子	628	48.0
計	1308	100.0

大人/就労状況	父親		母親	
	n	%	n	%
正社員	1085	86.2	223	17.3
アルバイト・パート	14	1.1	494	38.2
契約・嘱託社員	21	1.7	36	2.8
派遣社員	5	0.4	22	1.7
その他	12	1.0	5	0.4
自営業・フリーランス等の個人事業主	108	8.6	36	2.8
無職	14	1.1	476	36.8
計	1259	100.0	1292	100.0

父母の就労状況	n	%
共働き家庭 A （父母とも正社員または自営業）	224	17.1
共働き家庭 B （父母の1人以上が 正社員・自営業以外の働き方）	529	40.4
専業主婦/夫 家庭 （父母のいずれかが無職）	490	37.5
シングル家庭 （父または母が雇用形態に かかわらず有業）	65	5.0
計	1308	100.0

留意事項

- 本調査における「子供調査」は、回答者（大人）による代理回答である。
回答者（大人）には、調査時に同席している子供に質問をし、その回答を聞いて記入するよう指示している。
- 調査票では、基本的に「父親」「母親」という表記をしていない。各設問においては「あなた（回答者本人）」「配偶者（回答者の配偶者）」の項目を設けて質問し、それぞれの回答を回答者の性別によって以下のように分類・再集計し、「父親」「母親」のデータを算出している。
なお、配偶者については既婚の回答者のみに聞いている。

父親： [A：男性回答者における「あなた」の項目の回答] + [D：女性回答者における「配偶者」の項目の回答]
母親： [B：男性回答者における「配偶者」の項目の回答] + [C：女性回答者における「あなた」の項目の回答]
- 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている。
- 本調査は回答割合の表示において小数点以下第2位を四捨五入しているため、結果が100.0%にならない場合がある。
- 「平均回答個数」とは、複数回答形式の設問において各回答者が回答した選択肢の個数の平均を示す。

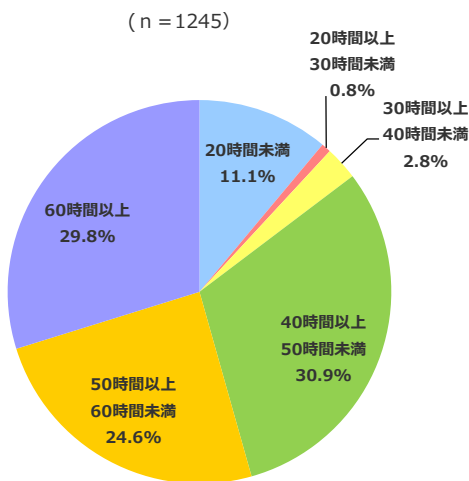
親の労働時間

小学校5-6年生の子供がいる家庭に、有職の父親と母親の1週間の労働時間（通勤時間や持ち帰り仕事、仕事の準備等を含む）を聞いた。

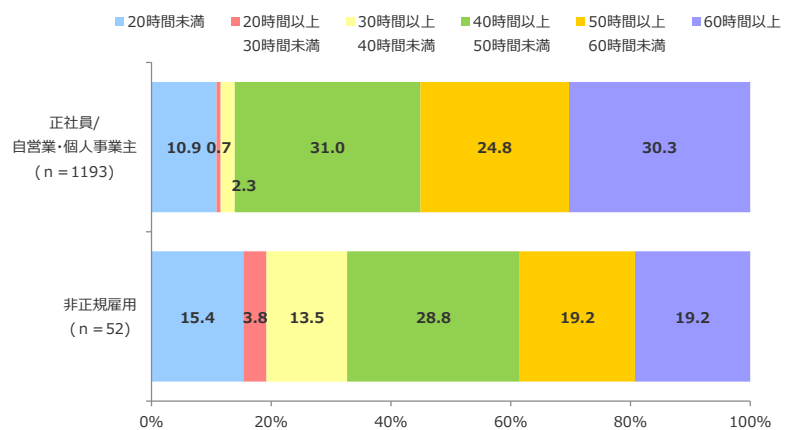
父親が有職の家庭では、父親の就労時間は「40時間以上50時間未満」が30.9%で最も多い一方、「60時間以上」も29.8%と多くを占めている（図1.1）。雇用形態別に見ると、「正社員/自営業・個人事業主」でも「非正規雇用」でも「40時間以上50時間未満」がそれぞれ31.0%、28.8%と最多を占めている。一方、「60時間以上」の回答者の割合は「正社員/自営業・個人事業主」が30.3%なのに対し、「非正規雇用」では19.2%と1割以上低く、雇用形態で差がある（図1.2）。

母親が有職の家庭では、母親の就労時間は「20時間未満」24.2%、「20時間以上30時間未満」25.0%と30時間未満の時間で働いている母親が半数近い（図1.3）。雇用形態別に見ると、「正社員」の母親の場合、「40時間以上50時間未満」が52.9%と過半数に上る。父親の「正社員/自営業・個人事業主」の場合、50時間以上の回答割合が55.1%に上るのに対し、母親の場合は25.5%となっており、同じ正社員という働き方でも父親の方が長時間労働となっている。また、「契約社員・嘱託社員」「派遣社員」は、「正社員」と同様フルタイムで働いている者の割合が高い。一方、「アルバイト・パート」の場合は、7割近くが30時間未満で働いている（図1.4）。

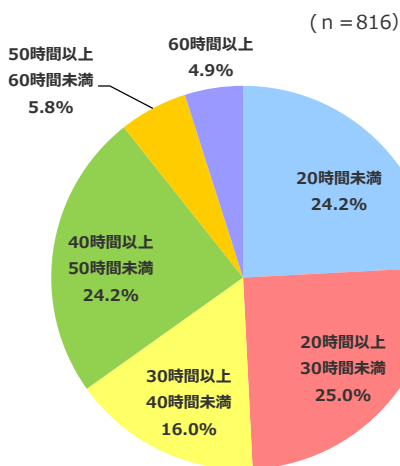
【図1.1】有職の父親の1週間の労働時間



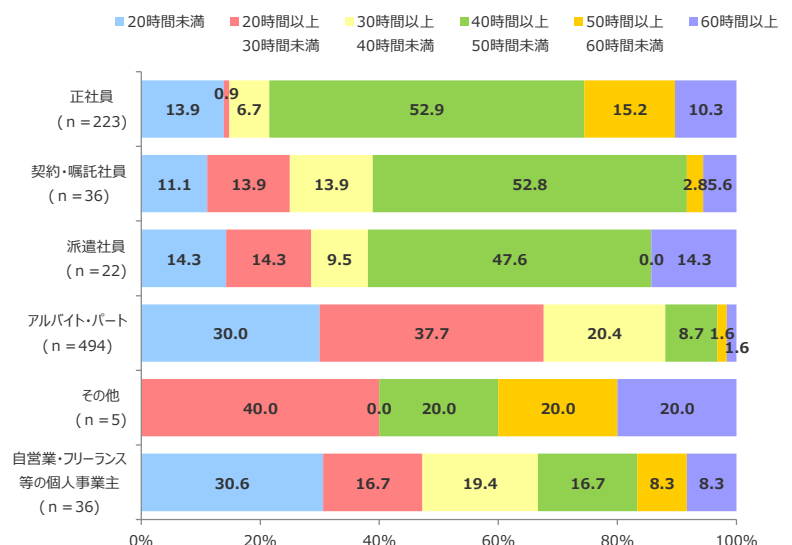
【図1.2】有職の父親の1週間の労働時間：父親の就労状況別



【図1.3】有職の母親の1週間の労働時間



【図1.4】有職の母親の1週間の労働時間：母親の就労状況別



親の年収

小学校5-6年生の子供がいる家庭に、有職の父親と母親の年収を聞いた。

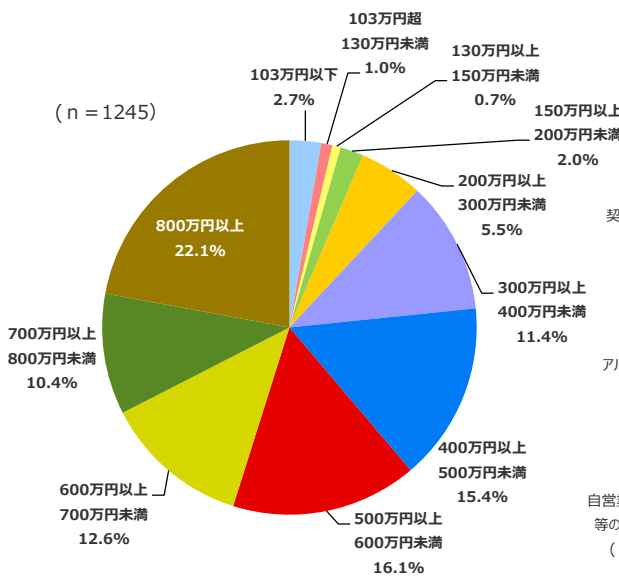
父親の年収は、「800万円以上」が22.1%で最も割合が高い。次いで「500万円以上600万円未満」16.1%、「400万円以上500万円未満」15.4%となっていた（図2.1、図2.2）。

母親の年収は、「103万円以下」が43.8%を占める。次点も「103万円超130万円未満」13.1%となっており、配偶者控除を受けられる範囲や第3号被保険者になれる範囲の収入の者が6割近くを占めている（図2.3）。

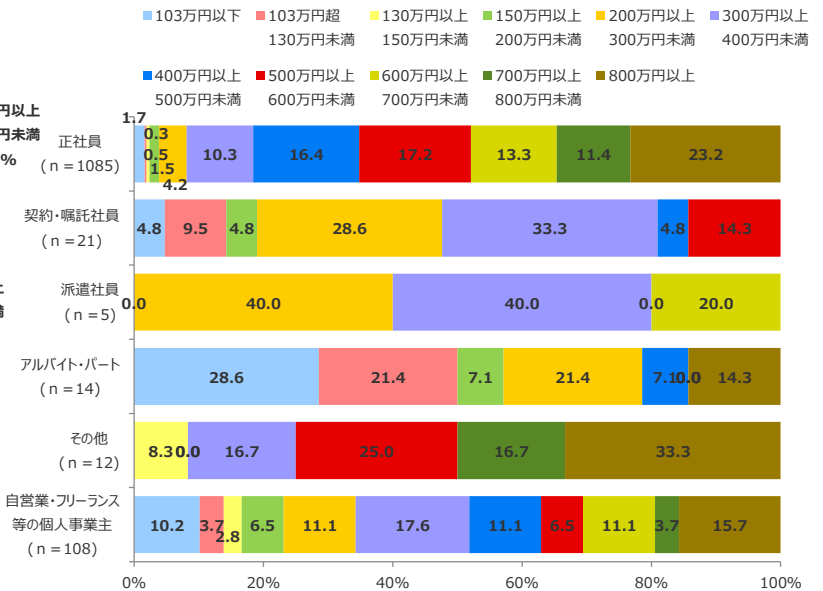
雇用形態別に見ると、「正社員」「契約・嘱託社員」「派遣社員」は、130万円未満の年収帯の回答割合が他の雇用形態よりも低く、ある程度の収入を得ている。特に、「正社員」で働く母親の43.5%は年収400万円以上となっている（図2.4）。

父親と母親では、同じ雇用形態だとしても収入に開きがあり、父親の方が高い年収帯の回答割合が高い傾向にある。

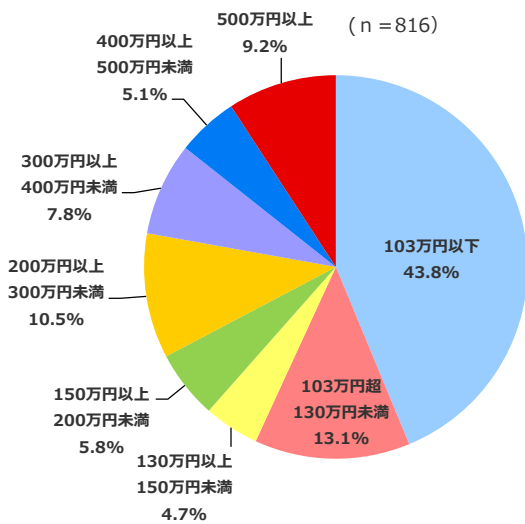
【図2.1】父親の年収



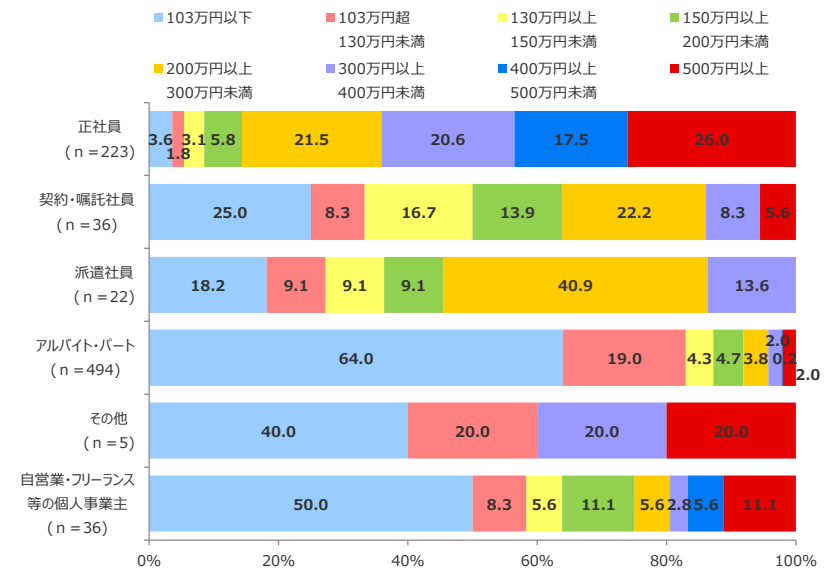
【図2.2】父親の年収：父親の雇用形態別



【図2.3】母親の年収



【図2.4】母親の年収：母親の雇用形態別



父親の仕事の充実度

小学校5-6年生の子供がいる家庭に、父親の仕事（※1）の充実度（※2）を聞いた。「充実している」17.5%、「どちらかと言えば充実している」51.7%となり、父親の仕事が充実している家庭が69.2%に上った（図3.1）。

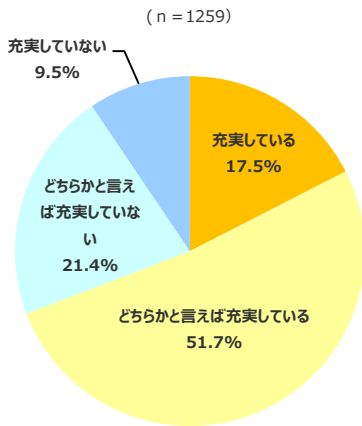
父親の就労状況を見ると、「正社員／自営業・個人事業主」「非正規雇用」の父親は充実度（「充実している」＋「どちらかと言えば充実している」の合計）が約7割となっている（図3.2）。

有職者について「大人調査：親の労働時間」との関係を見ると、「30時間以上40時間未満」「40時間以上50時間未満」「50時間以上60時間未満」においては、緩やかに充実度が高くなっていく（図3.3）。

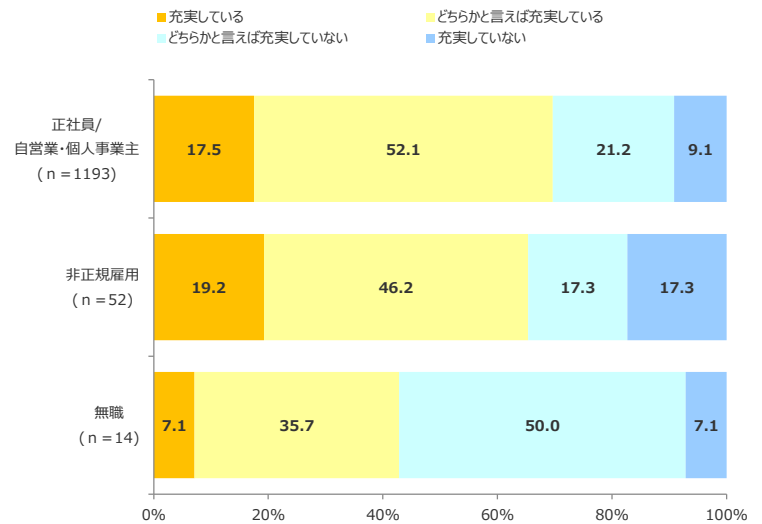
「大人調査：親の年収」との関係を見ると、年収が高くなるほど充実度も上がっていく傾向があった（図3.4）。

- ※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている
 ※2 回答者が女性の場合は、「配偶者はどのように感じていると思うか」と聞いている

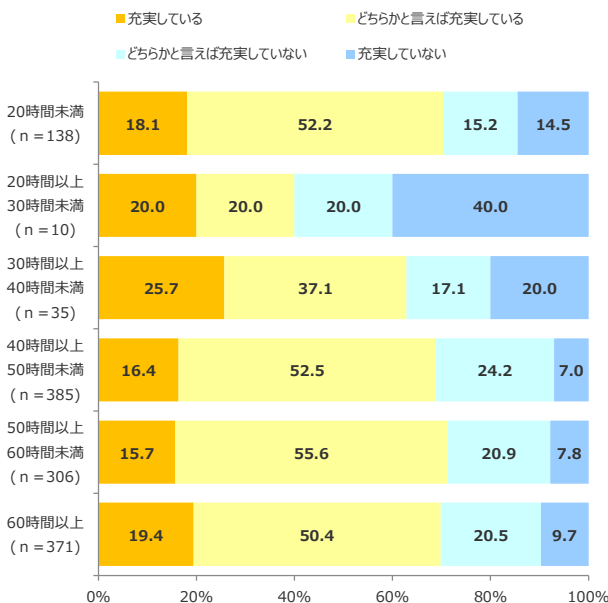
【図3.1】父親の仕事の充実度



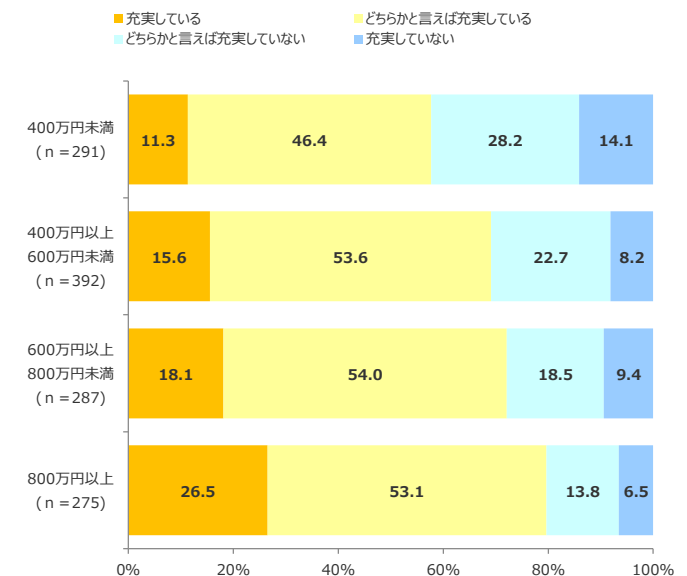
【図3.2】父親の仕事の充実度：父親の就労状況別



【図3.3】父親の仕事の充実度：有職の父親の1週間の労働時間別



【図3.4】父親の仕事の充実度：父親の年収別



母親の仕事の充実度

小学校5-6年生の子供がいる家庭に、母親の仕事（※1）の充実度（※2）を聞いた。「充実している」16.2%、「どちらかと言えば充実している」57.1%となり、母親の仕事が充実している家庭が73.3%に上った（図4.1）。

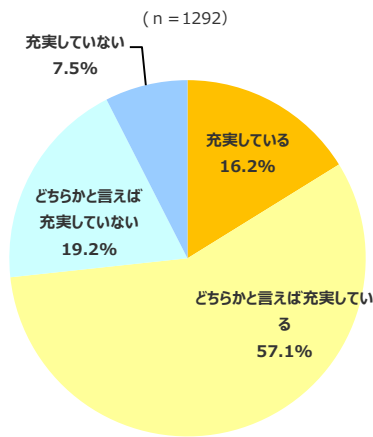
就労状況別に見ると、「正社員／自営業・個人事業主」の場合、充実度（「充実している」＋「どちらかと言えば充実している」の合計）は80.7%となり、最も高い。また、「無職者」に関しては、父親の場合は充実度が4割だったのに対し、母親は74.8%と高くなり、家事などの無償労働においても充実感を感じているようだ（図4.2）。

有職者について「大人調査：親の労働時間」との関係を見ると、最も充実度が高かったのは「50時間以上60時間未満」の82.9%だった（図4.3）。

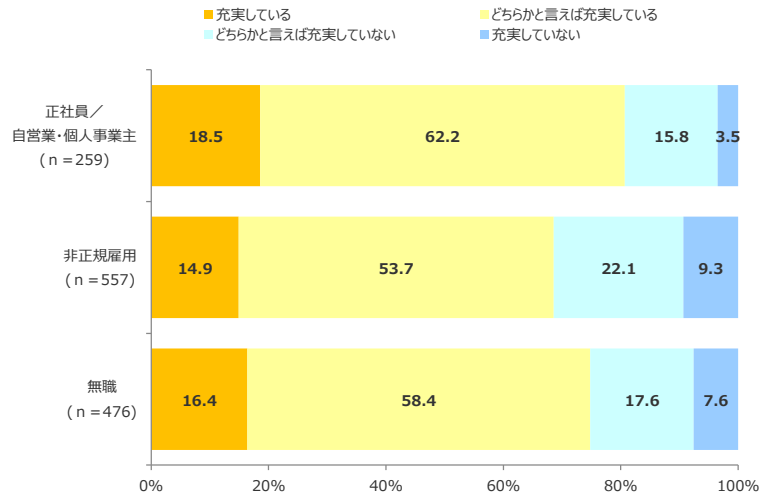
さらに、「大人調査：親の年収」との関係を見ると、年収が高くなるほど充実度も概ね上がっていく傾向があった（図4.4）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている
 ※2 回答者が男性の場合は、「配偶者はどのように感じていると思うか」と聞いている

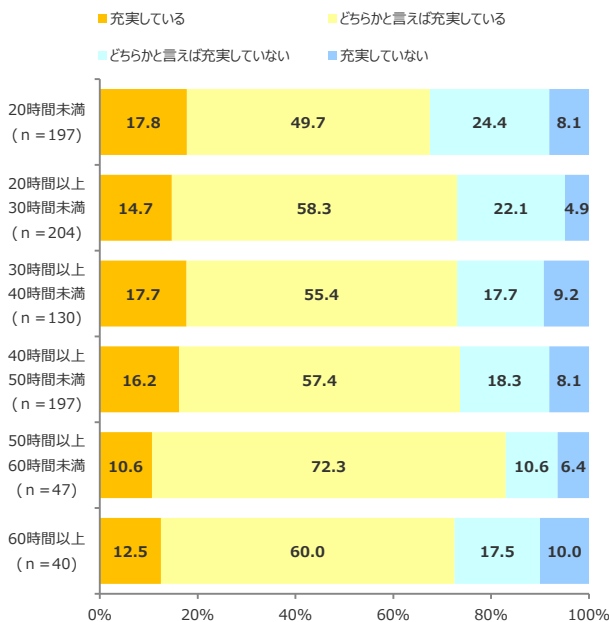
【図4.1】母親の仕事の充実度



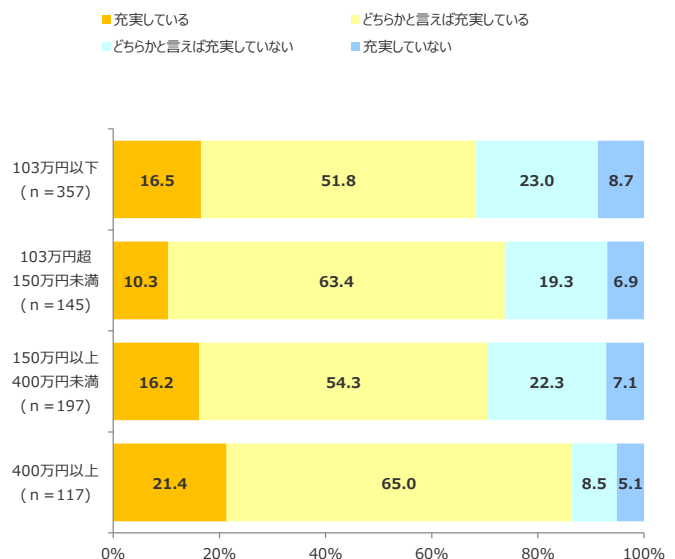
【図4.2】母親の仕事の充実度：母親の就労状況別



【図4.3】母親の仕事の充実度：有職の母親の1週間の労働時間別



【図4.4】母親の仕事の充実度：母親の年収別



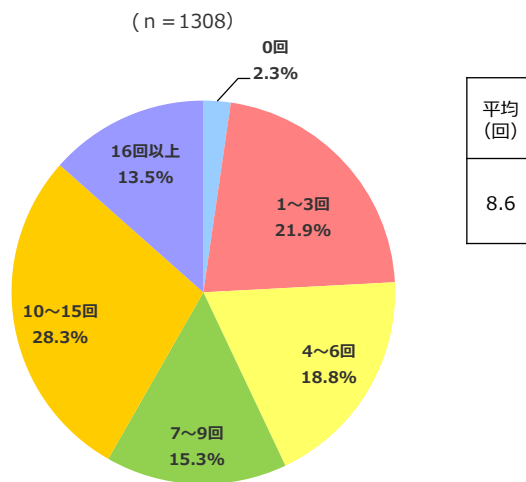
家族揃っての食事回数

小学校5-6年生の子供がいる家庭に、家族（※1）が揃って食事をする機会は週何回くらいあるか聞いた。最も多かったのは、「10～15回」で28.3%となっており、平均すると1日1～2回程度の家庭が多いようだ。一方、「0回」2.3%、「1～3回」21.9%、「4～6回」18.8%となっており、家族揃っての食事が1日1回未満という家庭も43.0%ある。平均は8.6回となっている（図5.1）。

家庭状況別に見ると、シングル家庭は平均12.2回と他よりも回数が多い（図5.2）。

※1 自身と配偶者と子供（複数いる場合は1人以上同席していればカウント可）

【図5.1】 家族揃っての食事回数



【図5.2】 家族揃っての食事回数：家庭状況別



子供との会話時間

小学校5-6年生の子供がいる男女に、子供との会話時間（1日平均）を聞いた（※1）。

※有職者は「労働日（働いている日）の平均」と「休日の平均」について、無職者は「毎日の平均」について聞いている

【有職者】労働日の子供との会話時間

有職の男女の労働日における子供との会話時間（1日平均）を聞くと、全体では「30分未満」24.8%、「30分以上1時間未満」28.3%、「1時間以上2時間未満」26.7%、「2時間以上」20.3%だった。

男性は「30分未満」31.8%、「30分以上1時間未満」30.6%と、1時間未満が6割を占めた。一方、女性は「2時間以上」が38.8%に上り、女性の方が子供と多くの時間話していた（図6.1）。

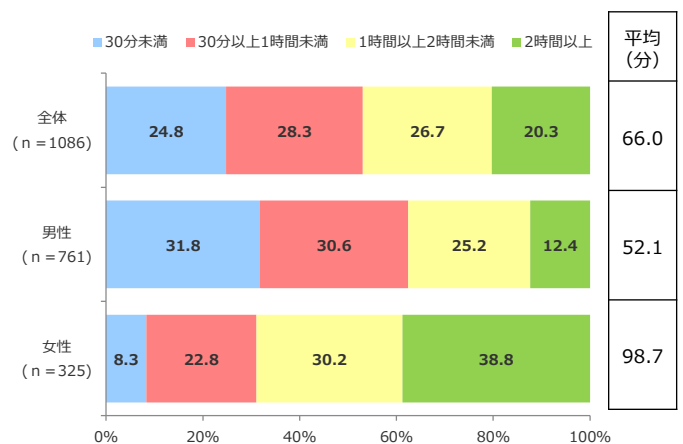
1週間の労働時間別に見た。

男性は、「20時間以上30時間未満」「30時間以上40時間未満」を除き、労働時間による子供との会話時間の変化はさほど見られない（図6.2）。

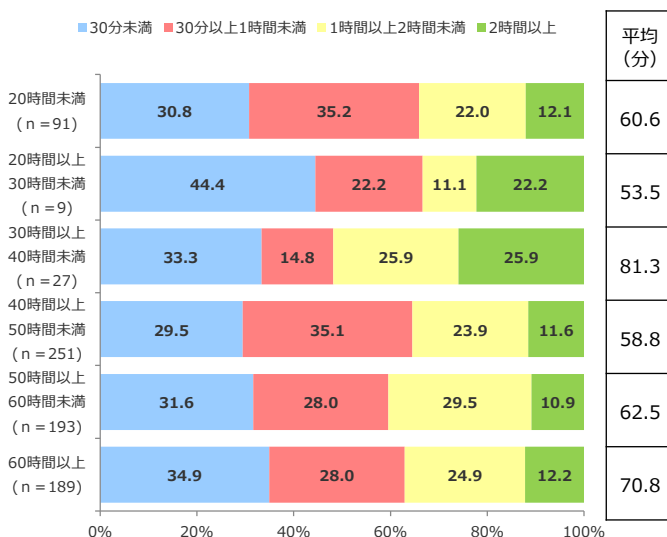
一方、女性は、「50時間以上60時間未満」を除き、労働時間が増えるにつれて、会話時間が「2時間以上」の者の割合が概ね減少していく傾向にあった（図6.3）。

また、1週間の労働時間が同じ男女を比べると、女性の方が男性よりも長い時間帯の回答割合が高くなっており、子供との会話時間が多いことがうかがえる。

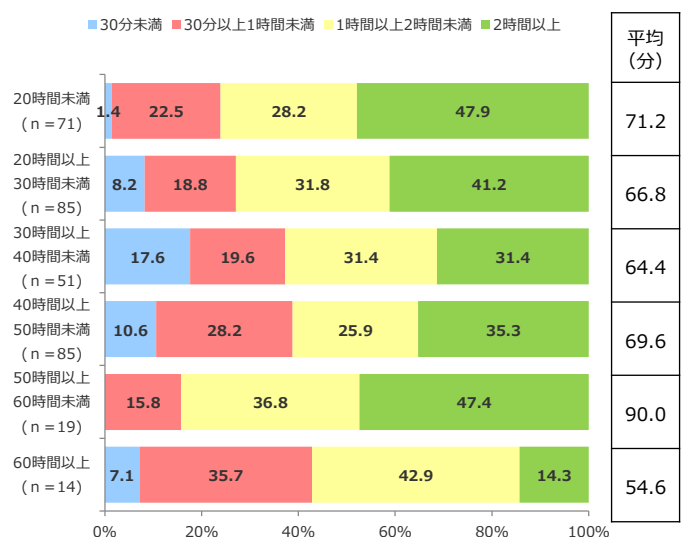
【図6.1】有職者／労働日の子供との会話時間：大人性別



【図6.2】男性有職者／労働日の子供との会話時間：1週間の労働時間別



【図6.3】女性有職者／労働日の子供との会話時間：1週間の労働時間別



【有職者】 休日の子供との会話時間

有職の男女の休日における子供との会話時間（1日平均）を聞くと、全体では「2時間以上」49.7%で最も高くなっていて、平均は144.7分だった

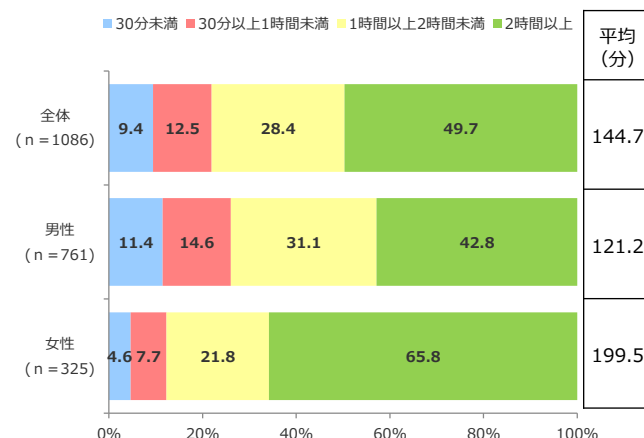
男女とも、「2時間以上」が最多を占めているが、女性は男性よりも23ポイント高くなっている。平均は、男性が121.2分なのに対し、女性は199.5分と70分以上も長くなっており、子供との会話機会が圧倒的に多いことがうかがえる（図6.4）。

1週間の労働時間別に見た。

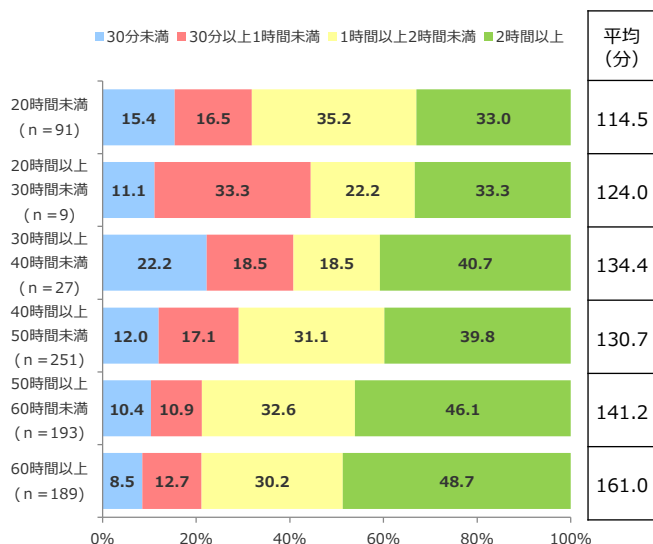
男性は、労働時間が長くなるほど「2時間以上」の回答割合が高くなる傾向があり、労働日の会話の少なさを休日に取り返そうとしているかのようだ（図6.5）。

一方、女性は、「50時間以上60時間未満」を除き、労働時間が長くなるほど「2時間以上」の回答割合が概ね低くなっていく（図6.6）。

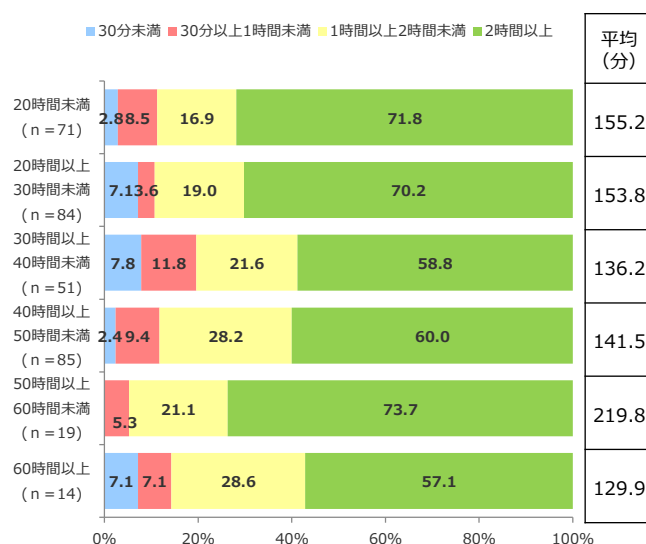
【図6.4】 有職者／休日の子供との会話時間：大人性別



【図6.5】 男性有職者／休日の子供との会話時間：1週間の労働時間別



【図6.6】 女性有職者／休日の子供との会話時間：1週間の労働時間別

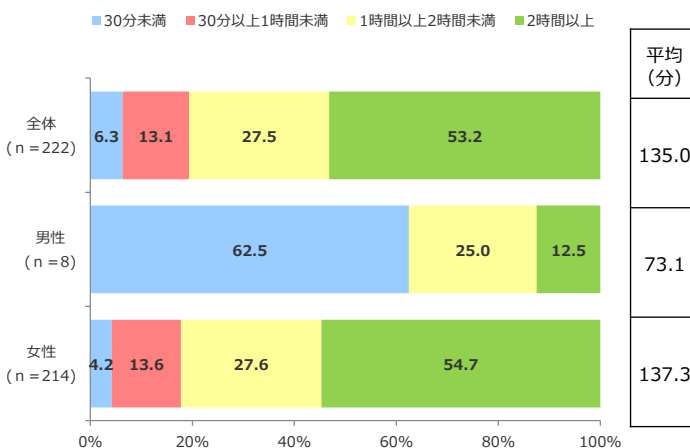


【無職者】 毎日の子供との会話時間

無職の男女に子供との会話時間の毎日の平均を聞くと、全体では「2時間以上」53.2%で最も高くなっていて、平均は135.0分だった

女性の方が、子供との会話時間は長くなっている（図6.7）。

【図6.7】 無職者／毎日の子供との会話時間：大人性別



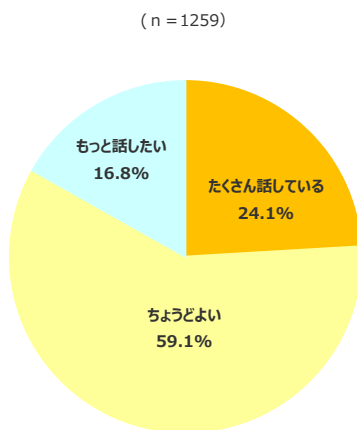
父親との会話量

小学校5-6年生の子供に、父親との会話量について聞くと、59.1%が「ちょうどよい」と回答した（図7.1）。

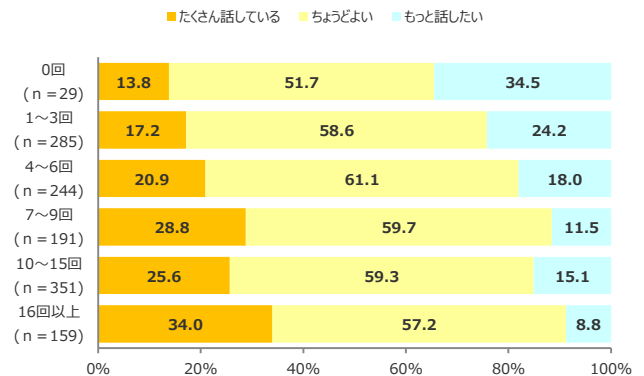
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、家族での食事回数が増えるほど「たくさん話している」と感じる子供が多くなっている傾向がある（図7.2）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、労働日でも休日でも会話時間が長い男性の子供ほど、「たくさん話している」と感じる割合が高くなっていく（図7.3、図7.4）。

【図7.1】父親との会話量

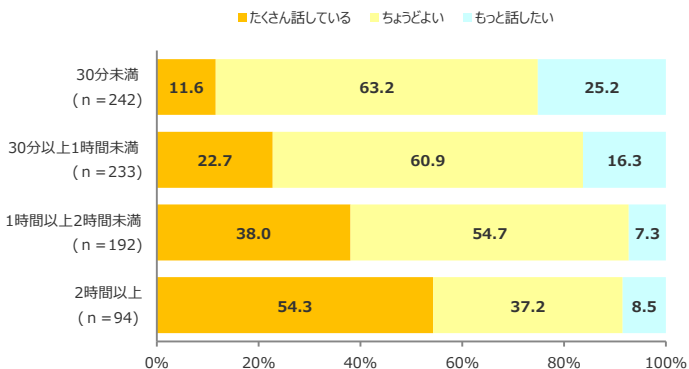


【図7.2】父親との会話量：家族揃っての食事回数別



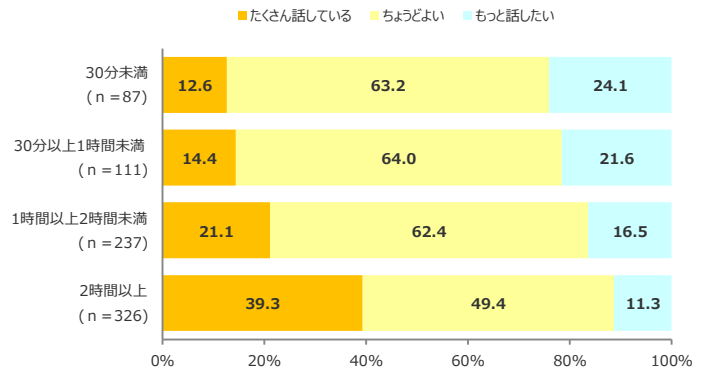
【図7.3】父親との会話量

：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図7.4】父親との会話量

：男性有職者の休日の子供との会話時間別



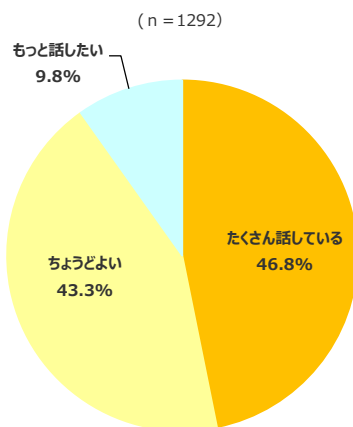
母親との会話量

小学校5-6年生の子供に、母親との会話量について聞くと、「たくさん話している」が46.8%、「ちょうどよい」43.3%となった。父親に比べて、「たくさん話している」の回答割合は大幅に高い（図8.1）。

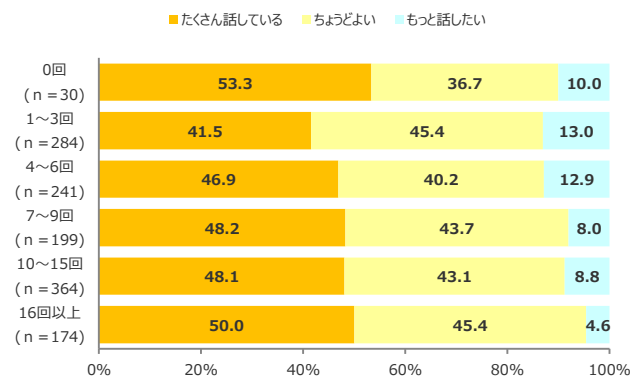
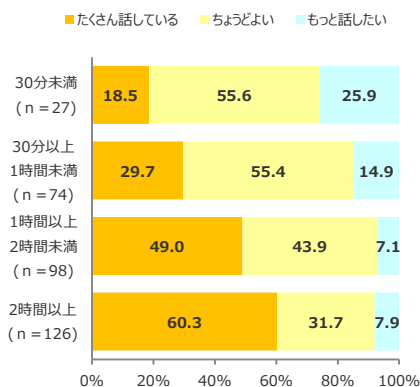
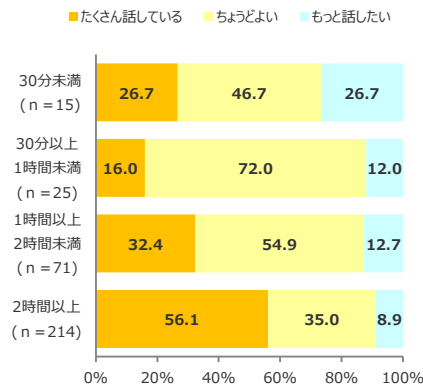
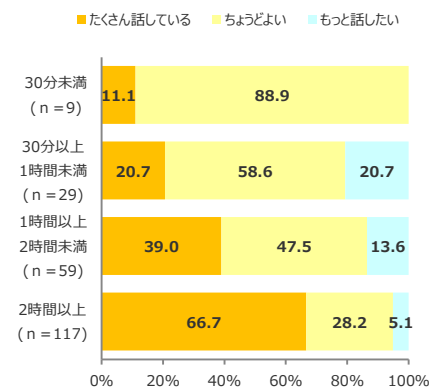
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、家族揃っての食事回数が多いほど「たくさん話している」と感じる子供が多くなっていった父親の場合とは異なり、食事回数による大きな変化は見られない。父親と子供の会話は食事場面で多く、母親と子供の場合は食事場面以外での会話も多くあることが推測される（図8.2）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職者の場合は労働日、休日とも、無職者の場合は毎日の会話時間が長い女性の子供ほど、子供は「たくさん話している」と満足感が高くなっていく（図8.3、図8.4、図8.5）。

【図8.1】母親との会話量



【図8.2】母親との会話量：家族揃っての食事回数別

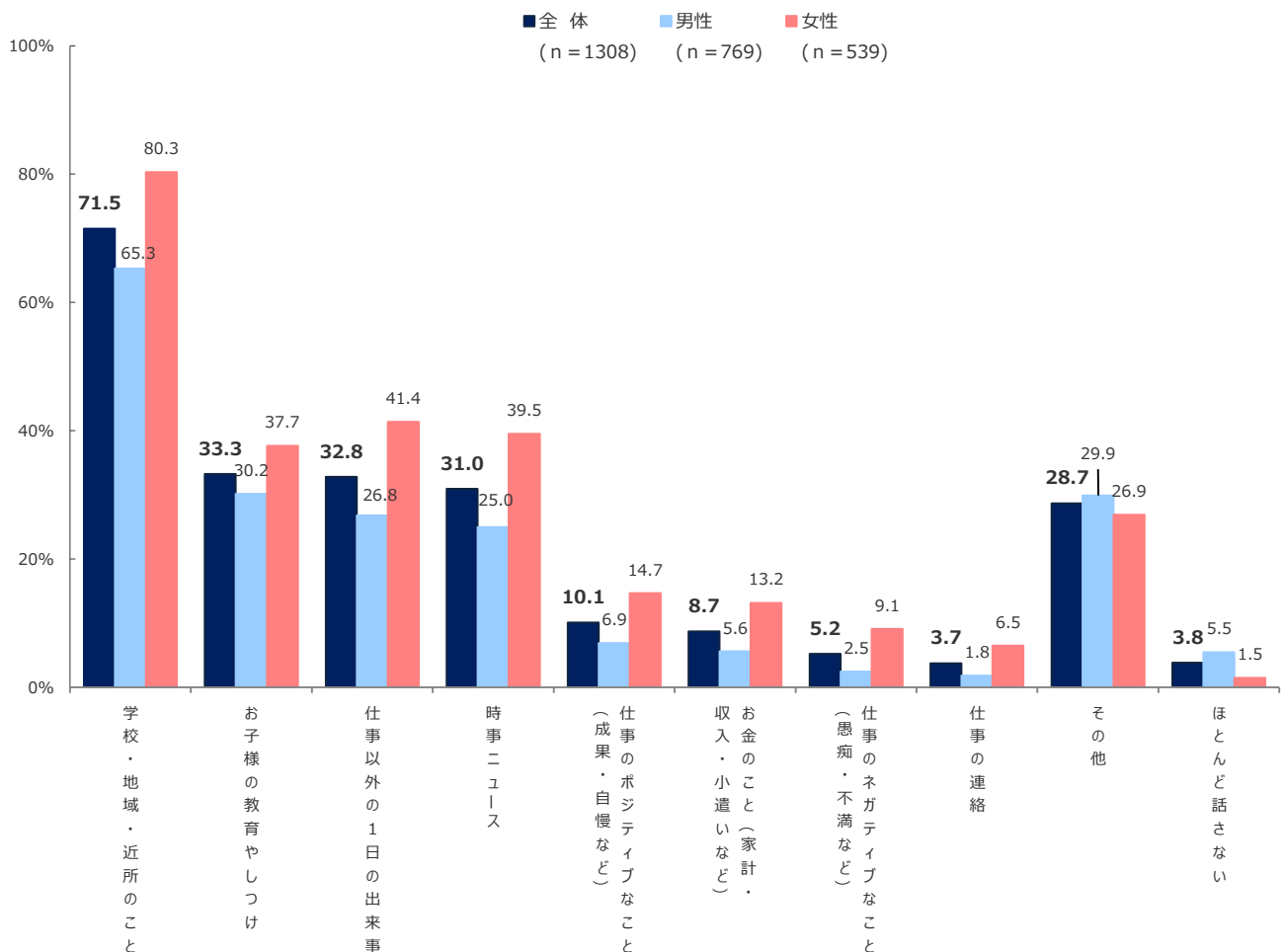
【図8.3】母親との会話量
：女性有職者の労働日の
子供との会話時間別【図8.4】母親との会話量
：女性有職者の休日の
子供との会話時間別【図8.5】母親との会話量
：女性無職者の毎日の
子供との会話時間別

家族との会話の内容

小学校5-6年生の子供がいる男女に、自身が家族と話す内容はどんなものが多いかを聞いた。最も多かったのは「学校・地域・近所のこと」で71.5%、次いで「お子様の教育やしつけ」33.3%、「仕事以外の1日の出来事」32.8%、「時事ニュース」31.0%となっている。

回答者の性別で見ると、女性は、「その他」を除きすべての内容において男性の回答割合を超えており、様々な話題を家族に話しているようだ（図9）。

【図9】 家族との会話の内容：大人性別



父親の仕事を知っているか[有職者]

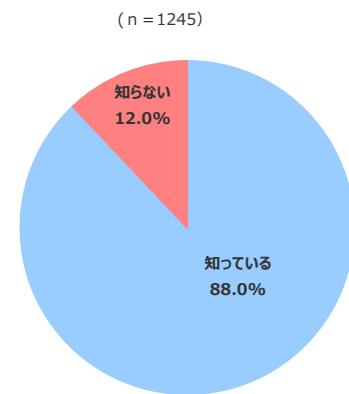
小学校5-6年生の子供に父親（有職者のみ）がどのような仕事をしているか知っているか聞いたところ、88.0%が「知っている」と回答した（図10.1）。

就労状況別に見ると、「正社員／自営業・個人事業主」と「非正規雇用」では、大きな差は見られなかった（図10.2）。

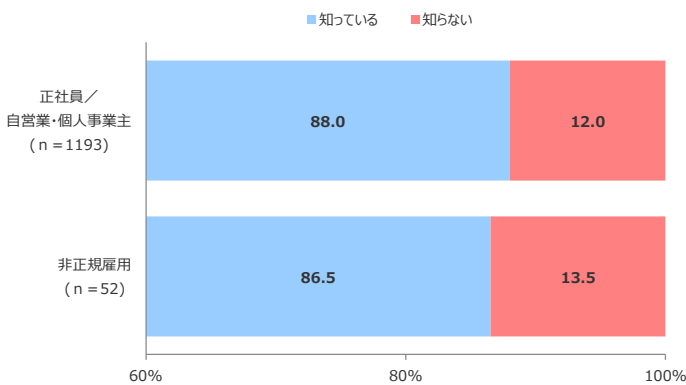
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、回数が多くなるほど「知っている」の回答割合が高くなる傾向にある（図10.3）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、労働日と休日の会話時間が「30分未満」の男性の子供だと、「知らない」と回答した割合がそれぞれ19.0%、26.4%と他よりも高くなっていった（図10.4、図10.5）。

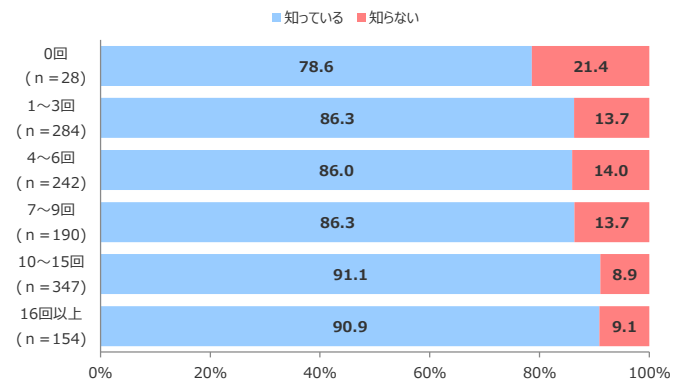
【図10.1】 父親の仕事を知っているか



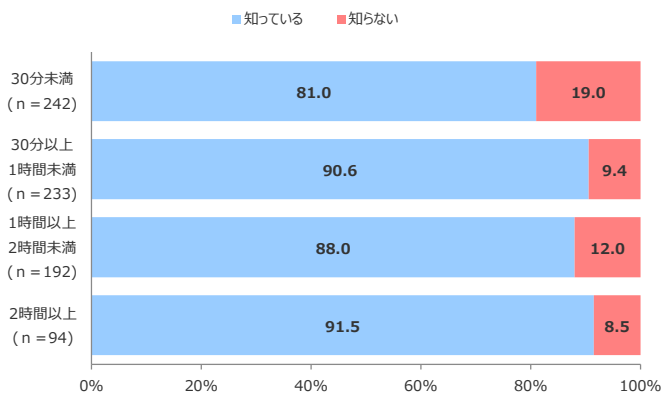
【図10.2】 父親の仕事を知っているか：父親の就労状況別



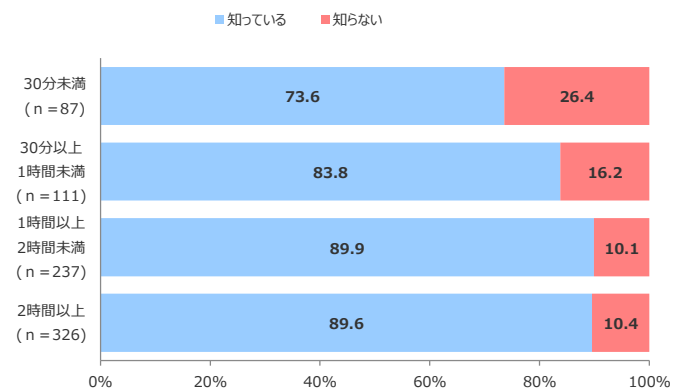
【図10.3】 父親の仕事を知っているか：家族揃っての食事回数別



【図10.4】 父親の仕事を知っているか：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図10.5】 父親の仕事を知っているか：男性有職者の休日の子供との会話時間別



母親の仕事を知っているか[有職者]

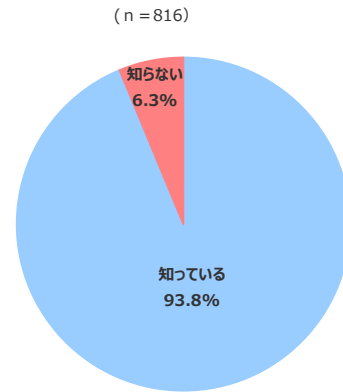
小学校5-6年生の子供に母親（有職者のみ）がどのような仕事をしているか知っているか聞いたところ、93.8%が「知っている」と回答した（図11.1）。父親の仕事よりも母親の仕事の方が「知っている」と回答した子供の割合は5.8ポイント高かった。

就労状況別では、大きな差は見られなかった（図11.2）。

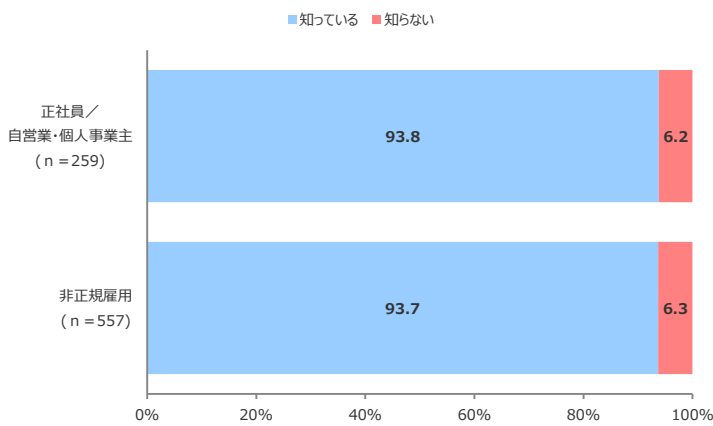
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、回数が多くなるほど「知っている」の回答割合が概ね高くなる傾向にある（図11.3）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、労働日の会話時間では、「知っている」割合は大きく変化しないが、休日の会話時間は長い女性の子供ほど「知らない」と回答した割合が高くなっていった（図11.4、図11.5）。

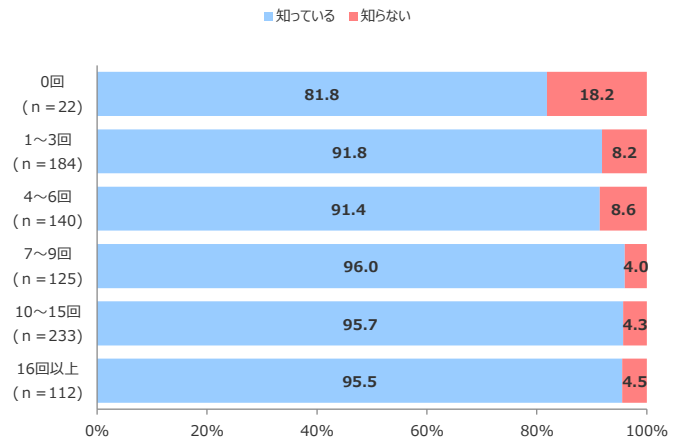
【図11.1】 母親の仕事を知っているか



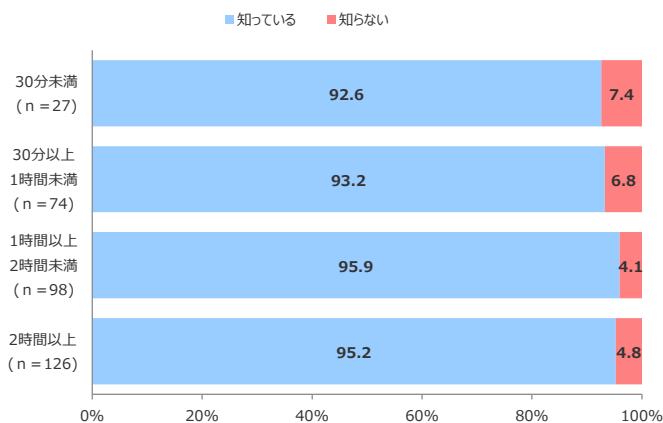
【図11.2】 母親の仕事を知っているか：母親の状況別



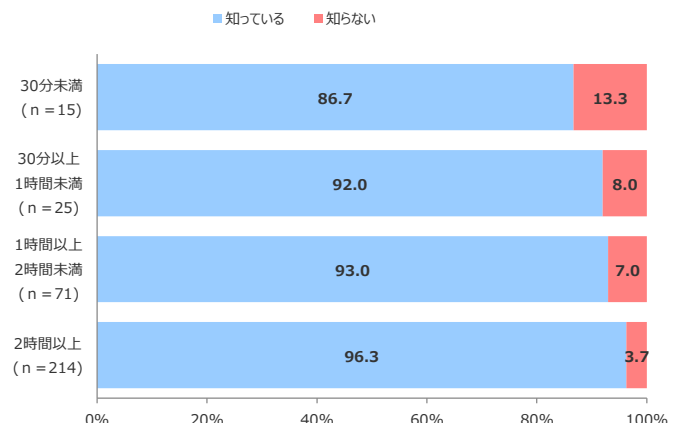
【図11.3】 母親の仕事を知っているか：家族揃っての食事回数別



【図11.4】 母親の仕事を知っているか
：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図11.5】 母親の仕事を知っているか
：女性有職者の休日の子供との会話時間別



配偶者の仕事を知っているか

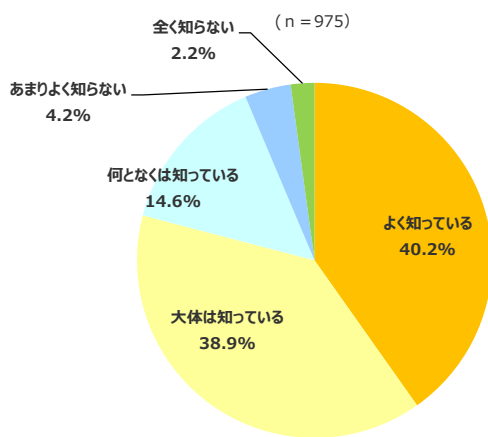
小学校5-6年生の子供がいる男女で既婚の者に、「配偶者」の仕事を知っているか聞いた（配偶者が無職の場合を除く）。「よく知っている」40.2%、「大体は知っている」38.9%となり、8割近い回答者が配偶者の仕事のある程度把握していた（図12.1）。

回答者の性別で見ると、女性に比べ、男性の方が配偶者の仕事を「よく知っている」と回答した割合が高い（図12.2）。

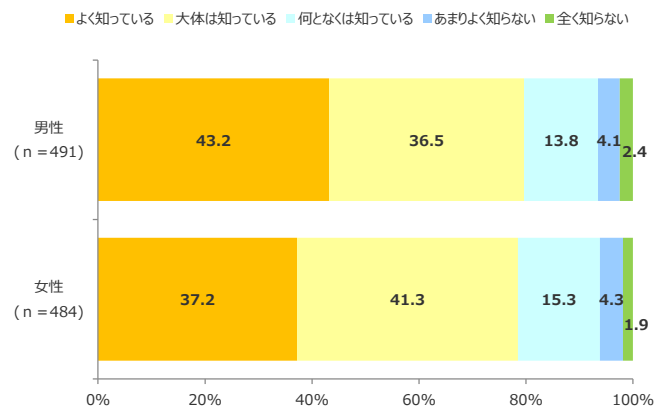
家庭状況別に見ると、「共働き家庭A」では配偶者の仕事を「よく知っている」者が52.7%と半数に上る一方、「専業主婦/夫 家庭」では30.6%と低くなっている（図12.3）。

家族揃っての食事回数別に見ると、食事回数が多くなるほど「よく知っている」の回答割合も概ね高くなる傾向があった（図12.4）。

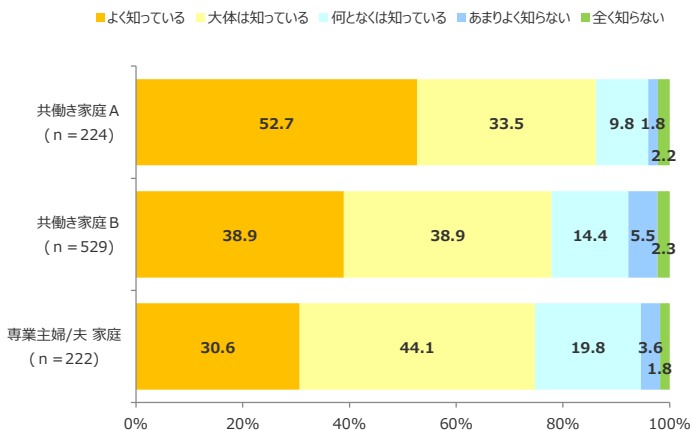
【図12.1】 配偶者の仕事を知っているか



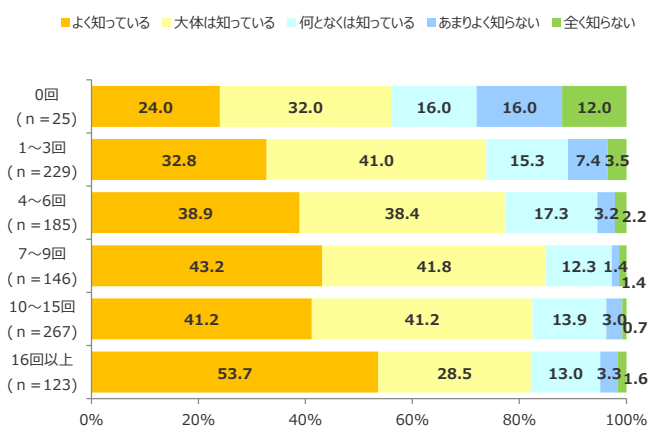
【図12.2】 配偶者の仕事を知っているか：大人性別



【図12.3】 配偶者の仕事を知っているか：家庭状況別



【図12.4】 配偶者の仕事を知っているか：家族揃っての食事回数別



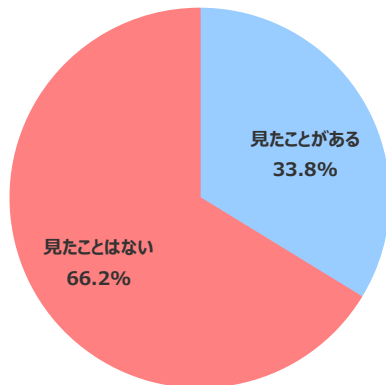
父親の働く姿を見たことがあるか

小学校5-6年生の子供に父親が働く姿（※1）を見たことがあるかを聞くと、「見たことがある」子供は33.8%だった（図13.1）。有職者に限った場合も、大きな変化はない（図13.2）。父親の仕事を「知っている」子供は9割近くに上ったが、その働く姿を実際に「見たことがある」子供は多くはないようだ。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

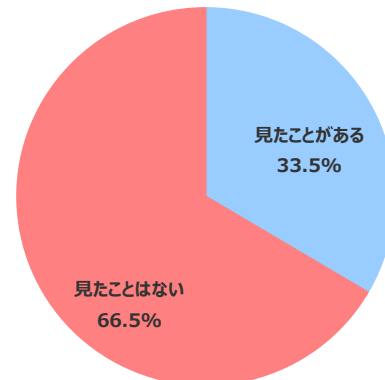
【図13.1】父親の働く姿を見たことがあるか

(n = 1259)



【図13.2】父親の働く姿を見たことがあるか[有職者のみ]

(n = 1245)



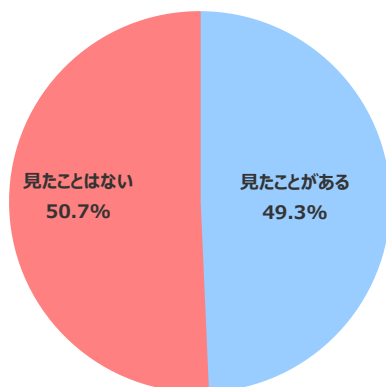
母親の働く姿を見たことがあるか

小学校5-6年生の子供に母親が働く姿（※1）を見たことがあるかを聞いた。母親の働く姿を「見たことがある」子供は49.3%だった（図14.1）。有職者に限ると「見たことがある」子供はやや減り、42.0%となっている（図14.2）。総じて、父親の働く姿を見たことがある子供よりも割合が高い。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

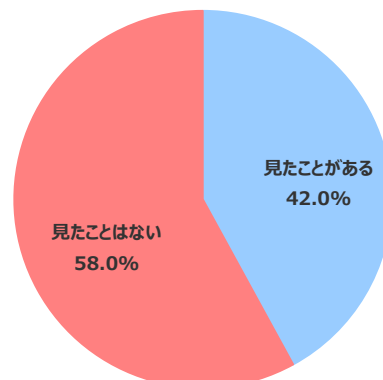
【図14.1】母親の働く姿を見たことがあるか

(n = 1292)



【図14.2】母親の働く姿を見たことがあるか[有職者のみ]

(n = 816)

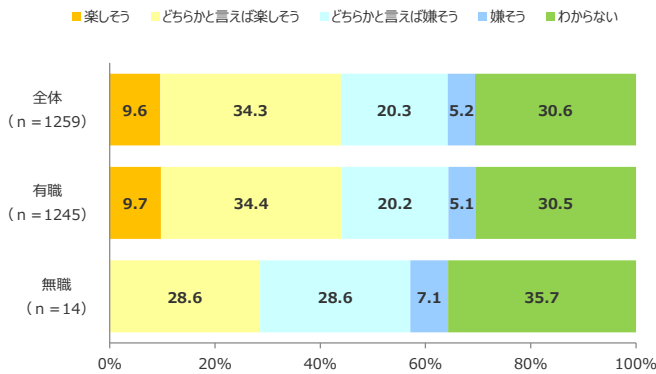


働く父親は楽しそうか

小学校5-6年生の子供に、働いている（※1）父親を見て楽しそうに見えるかを聞いた。全体では、「楽しそう」9.6%、「どちらかと言えば楽しそう」34.3%となり、合わせて43.9%の子供が、働いている父親は楽しそうに見える」と回答している。一方、「わからない」と回答した子供も30.6%いた。就労状況別で見ると、無職の父親に対しては「楽しそう」という回答はなく、「わからない」が35.7%と有職の父親よりも高くなっていた（図15.1）。

「大人調査：父親の仕事の充実度」との関係を見ると、父親の仕事が「充実している」家庭の子供は、「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」が計55.6%に上り、「充実していない」家庭の3倍以上高くなっていた（図15.2）。

【図15.1】働く父親は楽しそうか：父親の就労状況別



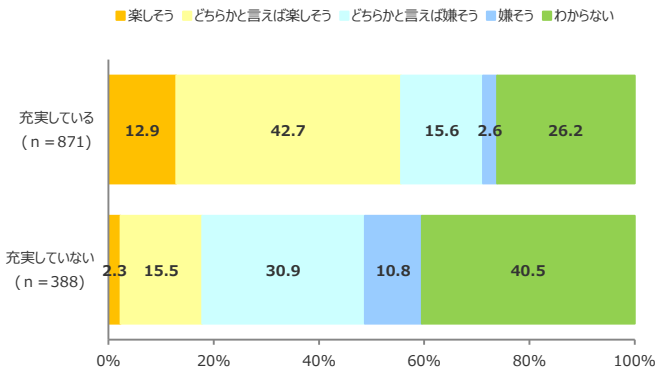
「大人調査：親の労働時間」との関係を見ると、父親の労働時間が「20時間以上30時間未満」「30時間以上40時間未満」以外は大きな差は見られず、労働時間の長さとはあまり関連がないように思われる（図15.3）。

「大人調査：家族揃っての食事回数別」との関係を見ると、食事回数が多くなるに連れて「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」の合計値も高くなる傾向が見えた（図15.4）。

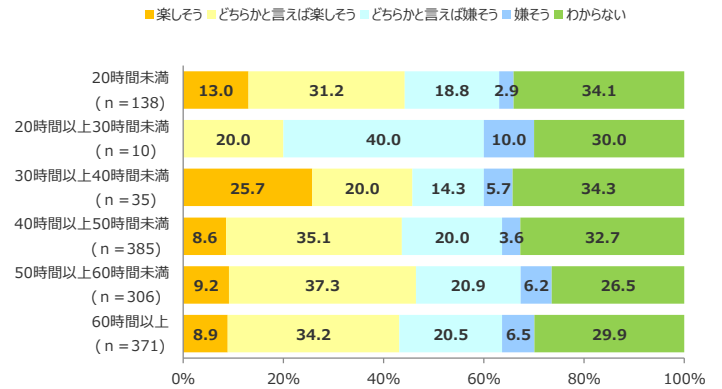
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、会話時間が長い男性の子供ほど「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」の合計値も高くなり、「わからない」という子供の割合も低くなっていた（図15.5）。子供たちは、日頃のコミュニケーションを通じて、父親の仕事の様子を感じ取っているのかもしれない。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている。

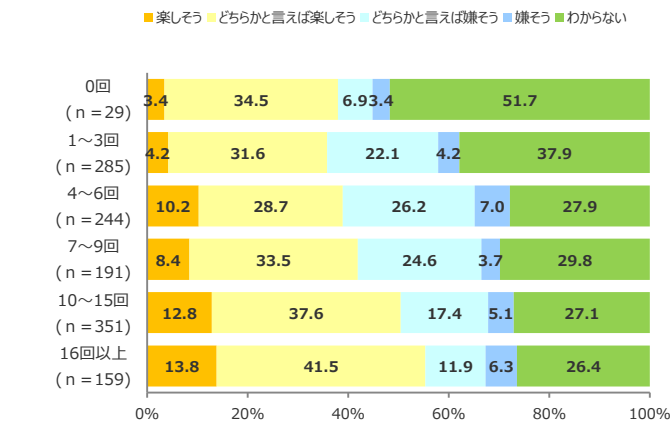
【図15.2】働く父親は楽しそうか：父親の仕事の充実度別



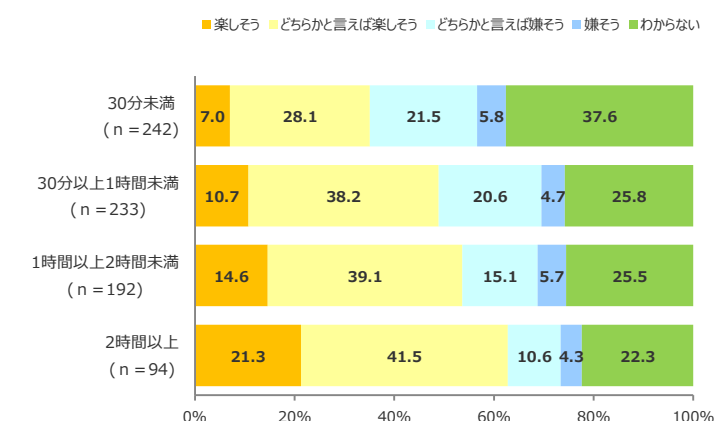
【図15.3】働く父親は楽しそうか：有職の父親の1週間の労働時間別



【図15.4】働く父親は楽しそうか：家族揃っての食事回数別



【図15.5】働く父親は楽しそうか：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



働く母親は楽しそうか

小学校5-6年生の子供に、働いている（※1）母親を見て楽しそうに見えるかを聞いた。全体では、「楽しそう」10.4%、「どちらかと言えば楽しそう」38.5%となり、合わせて48.9%の子供が働く母親が楽しそうに見えると回答した。父親に対してよりも5ポイント高い。一方、「わからない」と回答した子供も27.7%おり、母親が「無職」の場合は34.2%と他よりも高くなっていった（図16.1）。

「大人調査：母親の仕事の充実度」との関係を見ると、母親の仕事が「充実している」家庭の子供は、「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」が計58.6%に上り、「充実していない」家庭の2.5倍以上高くなっていった（図16.2）。

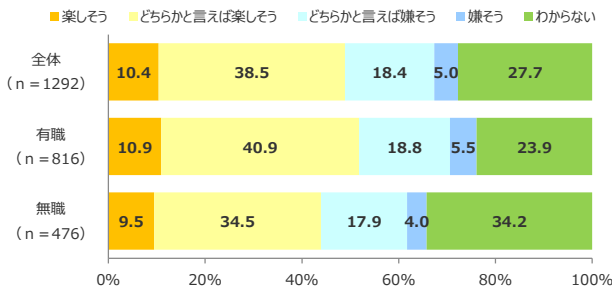
「大人調査：親の労働時間」との関係を見ると、母親の労働時間が「50時間以上60時間未満」「60時間以上」になると「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」の合計値が低くなった。半面、「どちらかと言えば嫌そう」の回答割合が増えており、外で長時間働いている負担感を子供も感じているように思われる（図16.3）。

「家族揃っての食事回数別」との関係を見ると、食事回数が多くなるに連れて「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」の合計値も高くなっていく傾向が見えた（図16.4）。

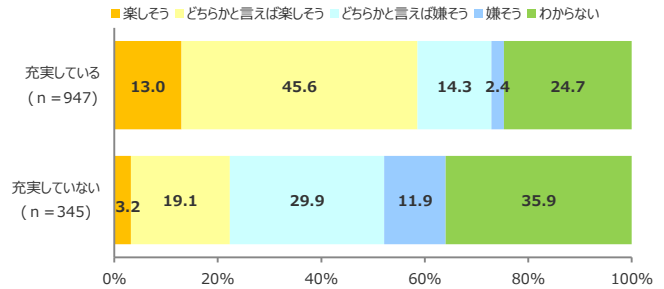
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、会話時間が長い女性の子供ほど「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」の合計値も高くなる（図16.5、図16.6）。無職者の場合も、会話時間が長くなるほど「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」の合計値は高くなるが、有職者に比べて「わからない」の回答割合が多いのも特徴である（図16.7）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

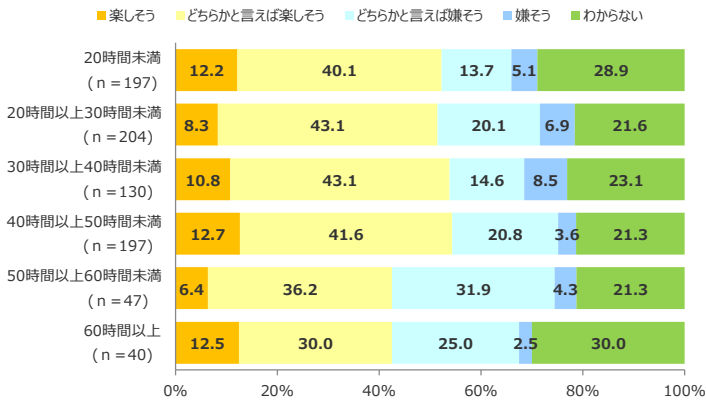
【図16.1】働く母親は楽しそうか：母親の就労状況別



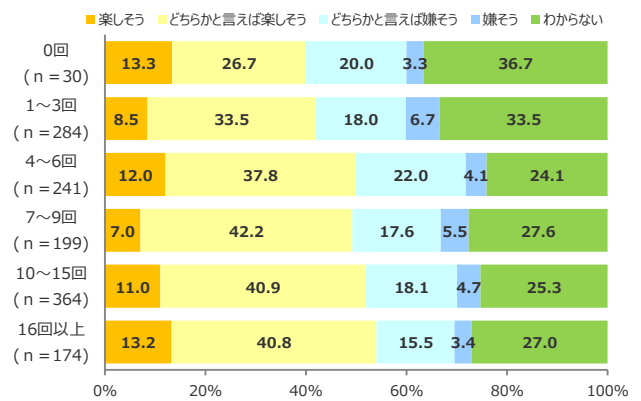
【図16.2】働く母親は楽しそうか：母親の仕事の充実度別



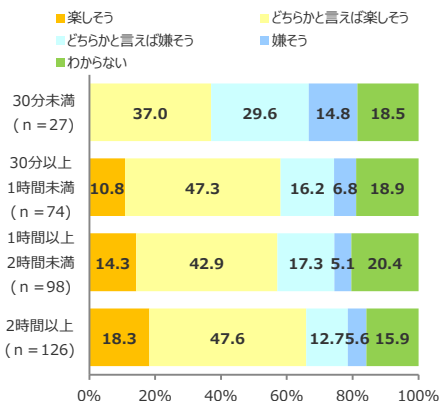
【図16.3】働く母親は楽しそうか：有職の母親の1週間の労働時間別



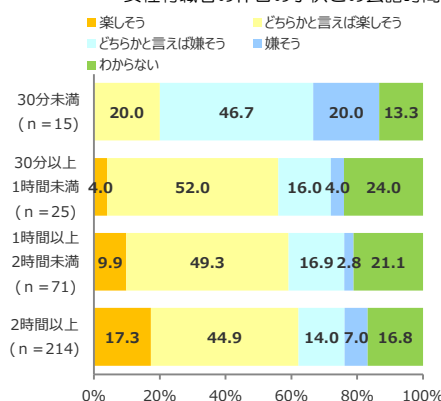
【図16.4】働く母親は楽しそうか：家族揃っての食事回数別



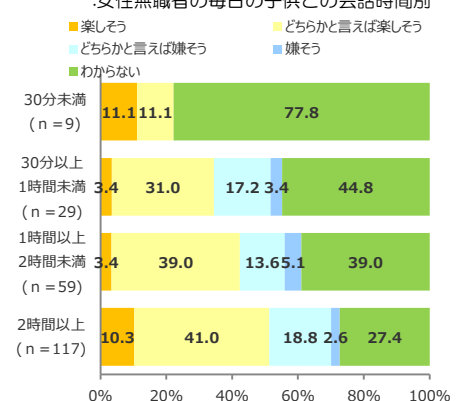
【図16.5】働く母親は楽しそうか：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図16.6】働く母親は楽しそうか：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図16.7】働く母親は楽しそうか：女性無職者の毎日の子供との会話時間別



働く父親を「すごい」と思うか

小学校5-6年生の子供に、働いている（※1）父親を見てすごいと思うかを聞いた。全体では「すごい」29.5%、「どちらかと言えばすごい」41.1%となり、合わせて70.6%の子供が働く父親をすごいと感じている。一方、「わからない」と回答した子供も18.9%いた（図17.1）。

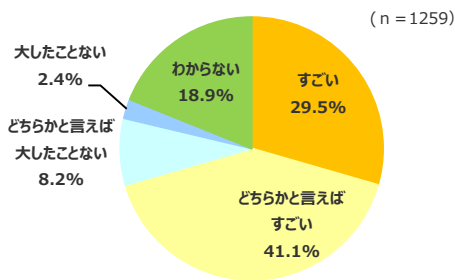
「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、父親の仕事を「見たことがある」家庭の子供は、「すごい」が40.2%と、「見たことはない」家庭の2倍近く高く、すごさを感じているようだ（図17.2）。

「大人調査：父親の仕事の充実度」との関係を見ると、父親の仕事が「充実している」家庭の子供は、「すごい」が35.1%と、「充実していない」家庭の2倍以上高くなっていた（図17.3）。

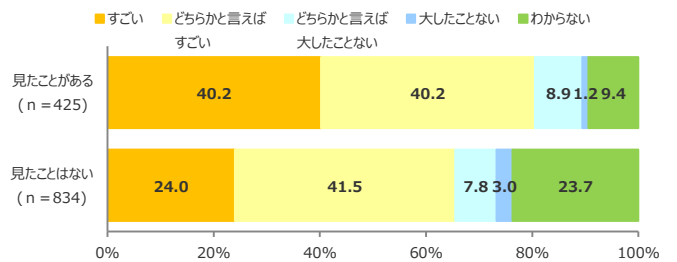
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、食事回数が多くなるほど父親を「すごい」と思う割合が上がり、反対に「わからない」は下がっていく傾向があった（図17.4）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを 「働く」または「仕事」としている

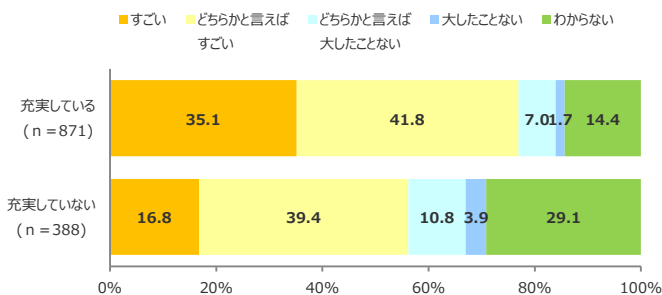
【図17.1】働いている父親を「すごい」と思うか



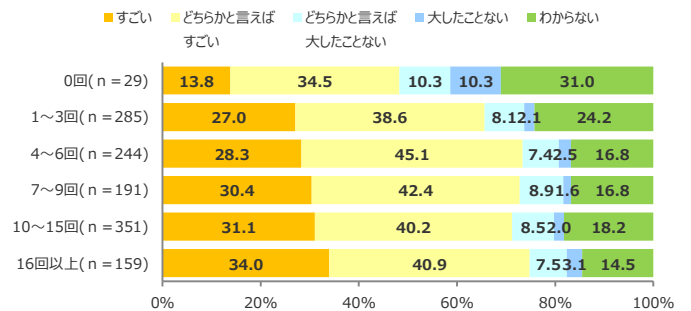
【図17.2】働いている父親を「すごい」と思うか
：父親の働く姿（無職者も含む）を見たことがあるか別



【図17.3】働いている父親を「すごい」と思うか
：父親の仕事の充実度別



【図17.4】働いている父親を「すごい」と思うか：家族揃っての食事回数別



父親の就労状況別に見ると、「正社員/自営業・個人事業主」「非正規雇用」「無職」の順に「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計値は高く、その反対に「どちらかと言えば大したことない」の回答割合は減少していく（図17.5）。

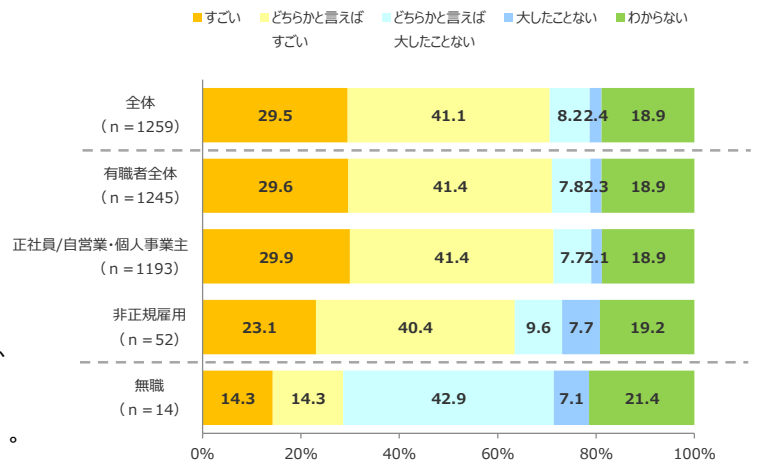
「大人調査：親の労働時間」との関係を見ると、父親の労働時間が長い家庭の子供ほど「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計値も概ね高くなる傾向があり、長時間働いていることも「すごい」と評価されていることがうかがえる（図17.6）。

「大人調査：親の年収」との関係を見ると、父親の年収が高い家庭の子供ほど、「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計値は高くなっていく。また、「わからない」の回答も、年収が高いほど低くなっていく（図17.7）。

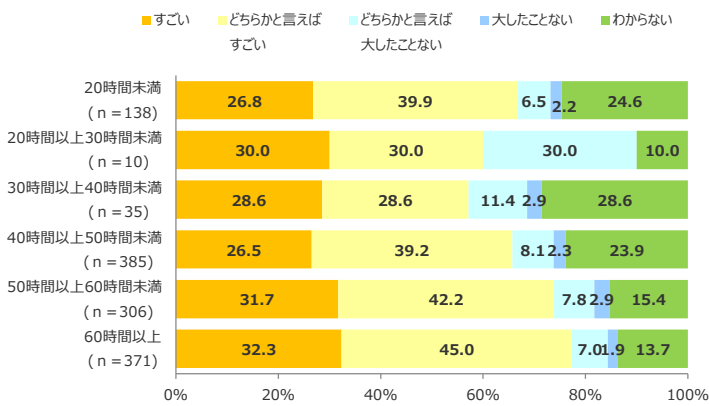
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職の男性の場合、労働日でも休日でも「2時間以上」子供と会話していると、子供は父親のことを「すごい」と感じている割合が高くなる（図17.8、図17.9）。

食事や会話の中で子供は父親の働く姿を想像し、それが尊敬につながっているのかもしれない。

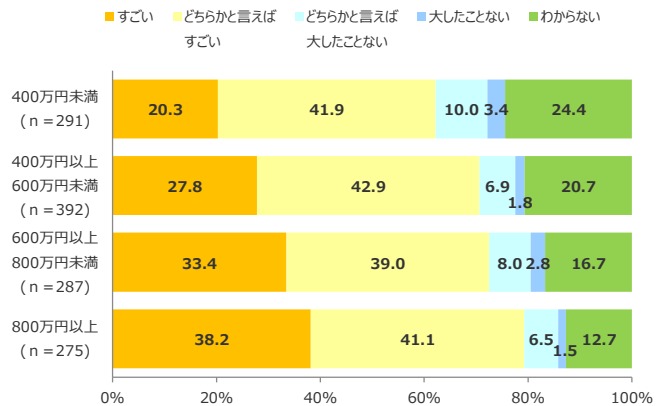
【図17.5】働いている父親を「すごい」と思うか：父親の就労状況別



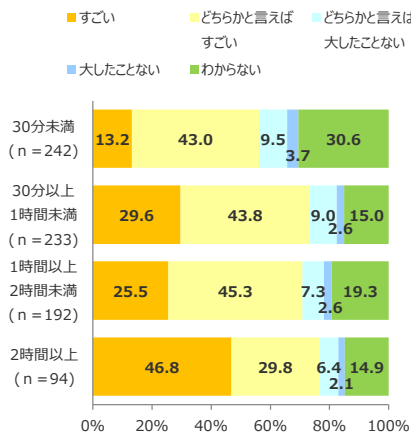
【図17.6】働いている父親を「すごい」と思うか：有職の父親の1週間の労働時間別



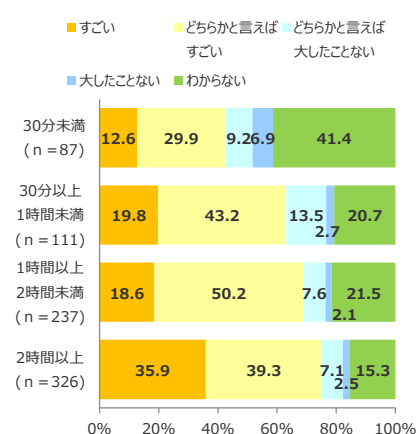
【図17.7】働いている父親を「すごい」と思うか：父親の年収別



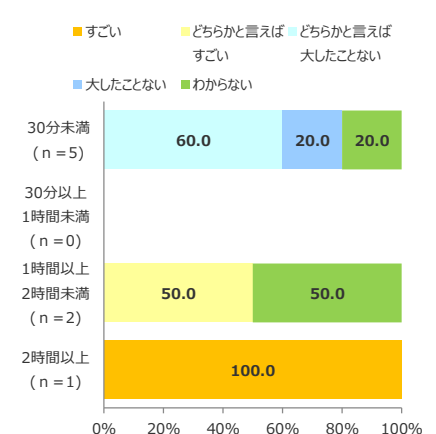
【図17.8】働いている父親を「すごい」と思うか：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図17.9】働いている父親を「すごい」と思うか：男性有職者の休日の子供との会話時間別



【図17.10】働いている父親を「すごい」と思うか：男性無職者の毎日の子供との会話時間別



働く母親を「すごい」と思うか

小学校5-6年生の子供に、働いている（※1）母親を見てすごいと思うかを聞いた。「すごい」23.8%、「どちらかと言えばすごい」42.9%となり、合わせて66.7%の子供が母親をすごいと感じている。父親と比べると、3.9ポイント低い（図18.1）。

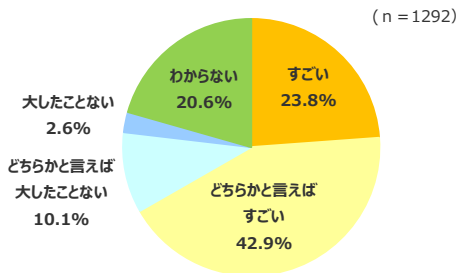
「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、母親の仕事を「見たことがある」子供は、「すごい」29.8%、「どちらかと言えばすごい」46.2%となり、「見たことはない」家庭に比べてそれぞれ11.8ポイント、6.5ポイント高くなっていた（図18.2）。

「大人調査：母親の仕事の充実度」との関係を見ると、母親の仕事が「充実している」家庭の子供は、「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計が71.4%となり、「充実していない」家庭よりも17.5ポイント高くなっていた（図18.3）。

「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、父親ほど差は出ておらず、影響は少ないようだ（図18.4）。

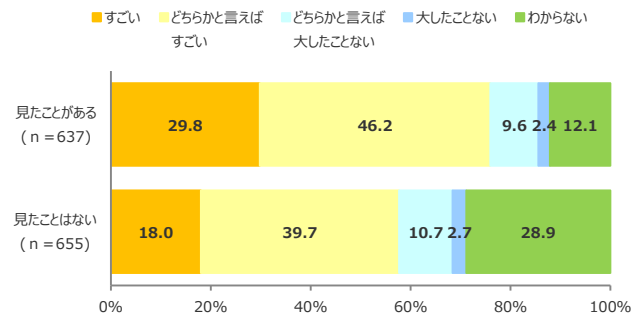
※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

【図18.1】働いている母親を「すごい」と思うか

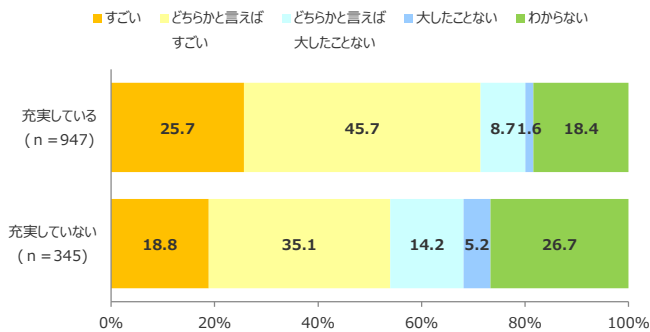


【図18.2】働いている母親を「すごい」と思うか

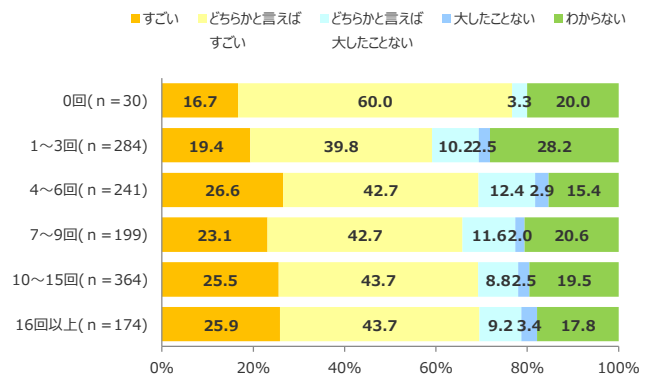
：母親の働く姿（無職者も含む）を見たことがあるか別



【図18.3】働いている母親を「すごい」と思うか
：母親の仕事の充実度別



【図18.4】働いている母親を「すごい」と思うか：家族揃っての食事回数別



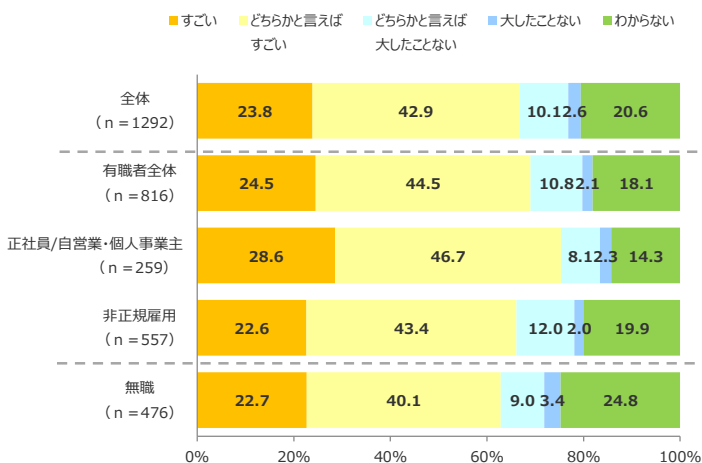
母親の就労状況別に見ると、「正社員/自営業・個人事業主」「非正規雇用」「無職」の順に、「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計値は高い。父親が「無職」の場合、「どちらかと言えば大したことない」は42.9%に上り、家事などの無償労働に対して評価されづらい印象があったが、母親の場合はそうではないようだ（図18.5）。

「大人調査：親の労働時間」との関係を見ると、有職の母親の1週間の労働時間が「40時間以上50時間未満」までは、労働時間が長くなるほど「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計値も高くなる傾向があったが、「50時間以上60時間未満」からは割合が低下する。同時に「わからない」が増加していた。父親の場合と異なり、長時間働いていることがプラスに働かないようだ（図18.6）。

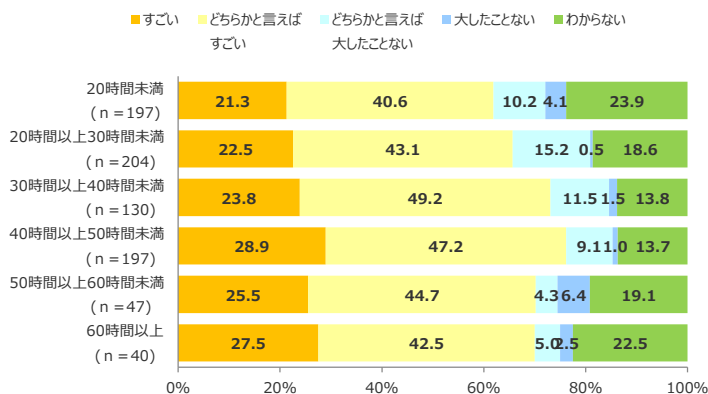
「大人調査：親の収入」との関係を見ると、子供の母親への評価は、母親の収入によって大きくは変化しない。父親は、収入が高くなるほど「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計値が高くなっていったが、母親の収入は、評価へあまり影響しないようだ（図18.7）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、「2時間以上」子供と会話している女性の場合、子供は母親のことを「すごい」と感じている割合が高くなる傾向だった（図18.8、図18.9、図18.10）。

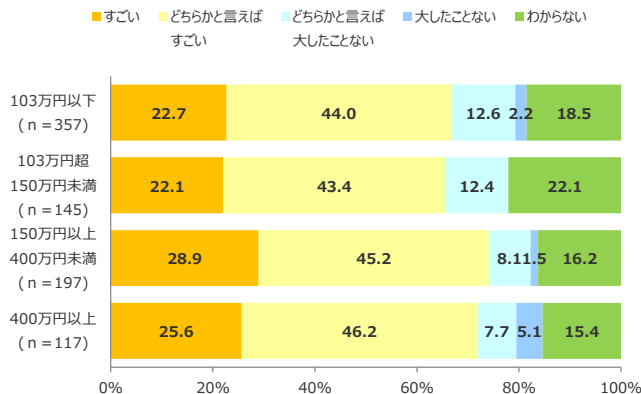
【図18.5】働いている母親を「すごい」と思うか：母親の就労状況別



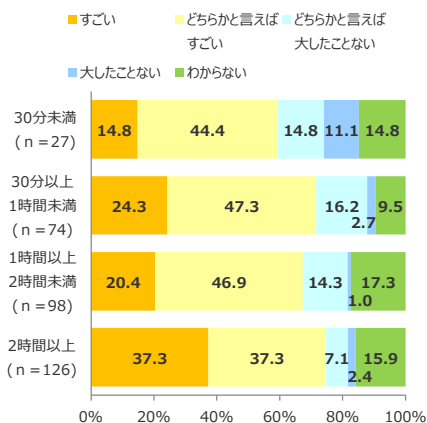
【図18.6】働いている母親を「すごい」と思うか：有職の母親の1週間の労働時間別



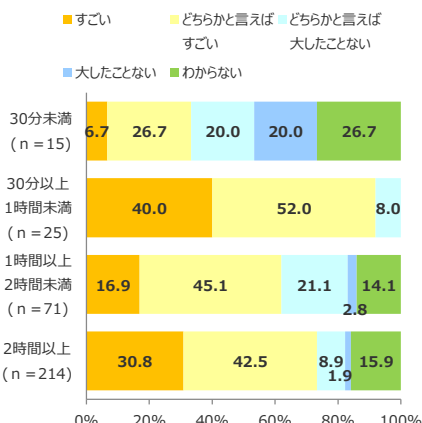
【図18.7】働いている父親を「すごい」と思うか：母親の年収別



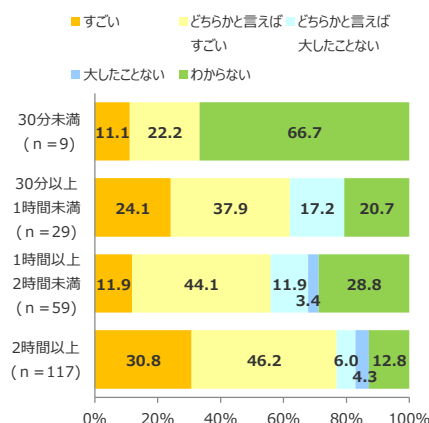
【図18.8】働いている母親を「すごい」と思うか：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図18.9】働いている母親を「すごい」と思うか：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図18.10】働いている母親を「すごい」と思うか：女性無職者の毎日の子供との会話時間別



働く父親への憧れ

小学校5-6年生の子供に、働いている（※1）父親を見てどのように感じているかを聞いた。

父親に対して、「あんな大人になりたい・計（「どちらかと言えばなりたい」も含む、以下同）」と憧れを持っている割合は、48.2%に上った（図19.1）。

子供の性別で見ると、女子よりも男子の方が「あんな大人になりたい」の割合が高く、同性ゆえかその憧れも強いようだ（図19.2）。

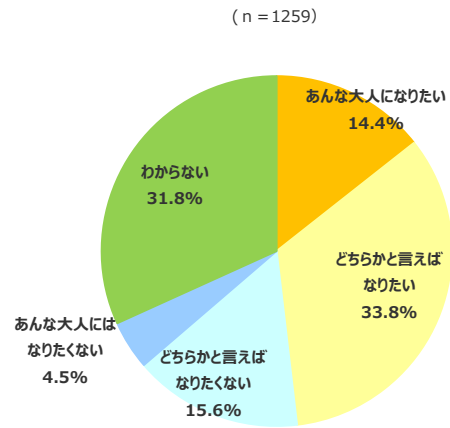
「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、父親の働く姿を「見たことがある」子供は、「あんな大人になりたい・計」が60.2%となり、「見たことがない」子供よりも18.2ポイント高くなっていた。さらに、「わからない」という曖昧な回答者の割合も低い（図19.3）。

「大人調査：父親の仕事の充実度」との関係を見ると、父親の仕事が「充実している」家庭の子供は、「あんな大人になりたい・計」が58.3%と、「充実していない」家庭よりも2倍以上高くなっていた（図19.4）。

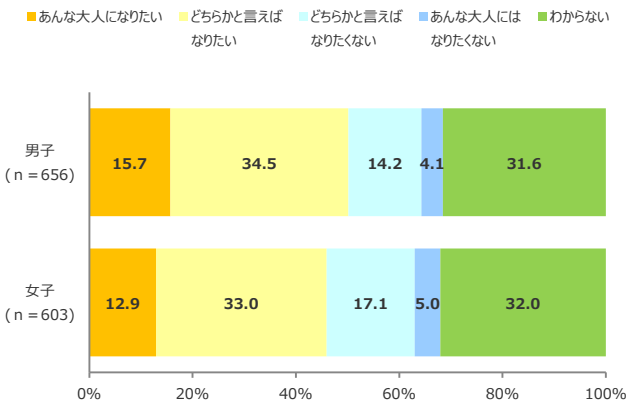
就労状況別に見ると、「あんな大人になりたい・計」は、「正社員／自営業・個人事業主」では48.7%、「非正規雇用」では42.3%、「無職」では21.4%となっている（図19.5）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

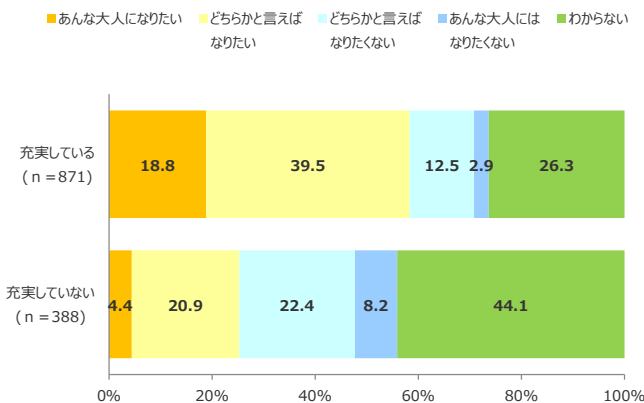
【図19.1】働いている父親を見てどのように感じているか



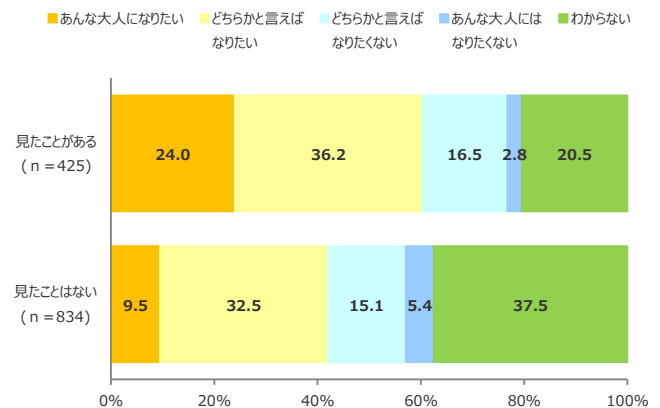
【図19.2】働いている父親を見てどのように感じているか：子供性別



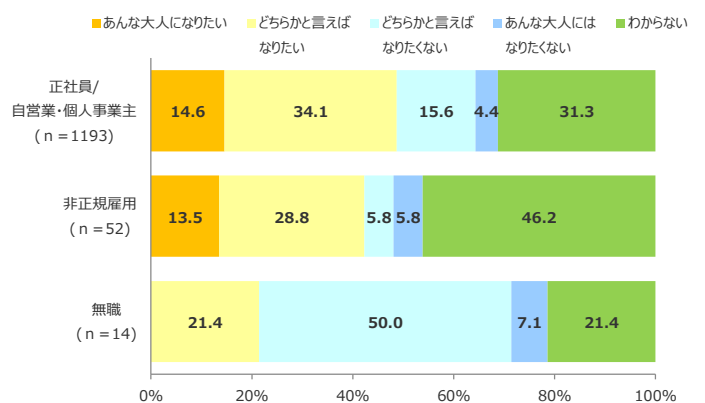
【図19.4】働いている父親を見てどのように感じているか：父親の仕事の充実度別



【図19.3】働いている父親を見てどのように感じているか：父親の働く姿（無職者も含む）を見たことがあるか別



【図19.5】働いている父親を見てどのように感じているか：父親の就労状況別



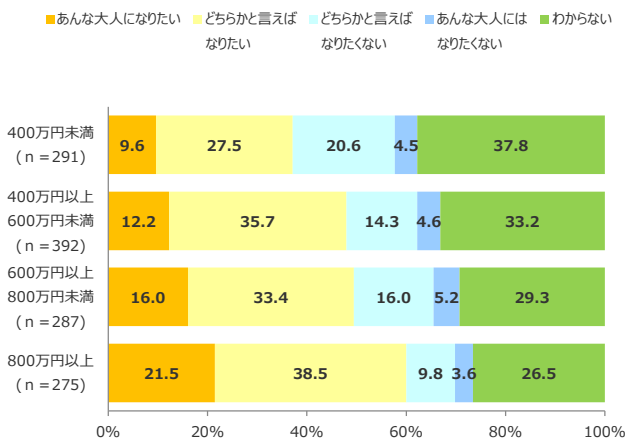
「大人調査：親の年収別」との関係を見ると、父親の年収が高くなるにつれて、「あんな大人になりたい・計」が高くなり、父親に憧れを持つ割合が高くなっていく（図19.6）。

「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、食事回数が多くなるほど、「あんな大人になりたい・計」は高くなる傾向にある。「わからない」の回答割合も、食事回数が高くなるほど低くなる（図19.7）。

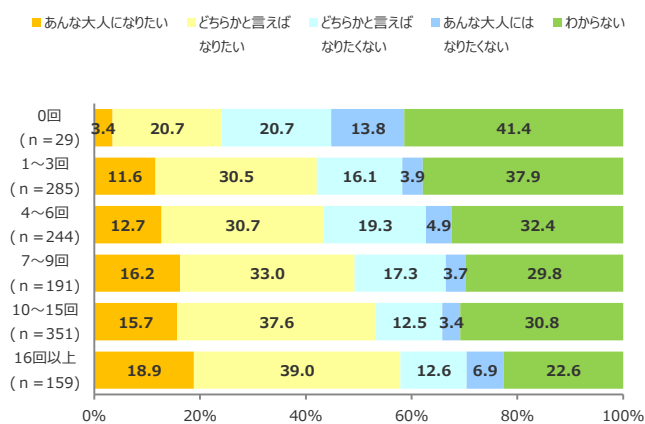
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職の男性で子供との会話時間が長くなるほど、子供は「あんな大人になりたい・計」が高くなる傾向がある（図19.8、図19.9）。

食事や会話など父親と過ごす時間が多いことで、父親の仕事や考えに触れる機会が増え、憧れにつながっているように思われる。

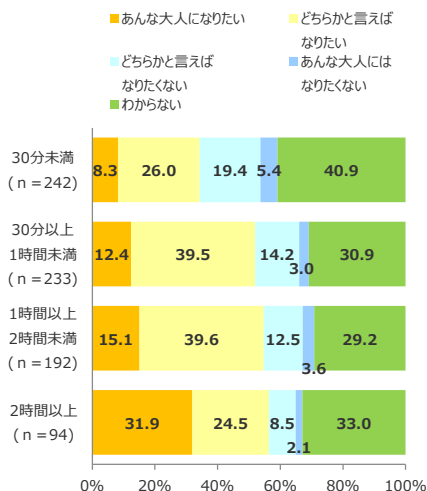
【図19.6】働いている父親を見てどのように感じているか
：父親の年収別



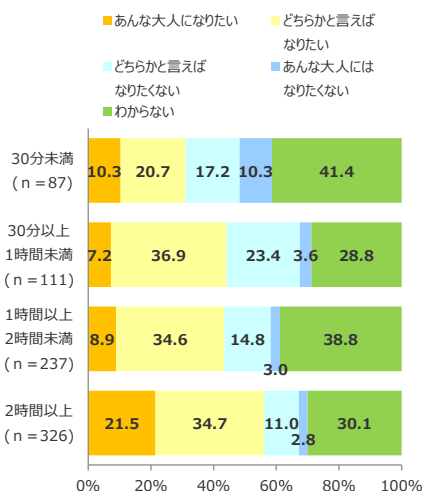
【図19.7】働いている父親を見てどのように感じているか
：家族揃っての食事回数別



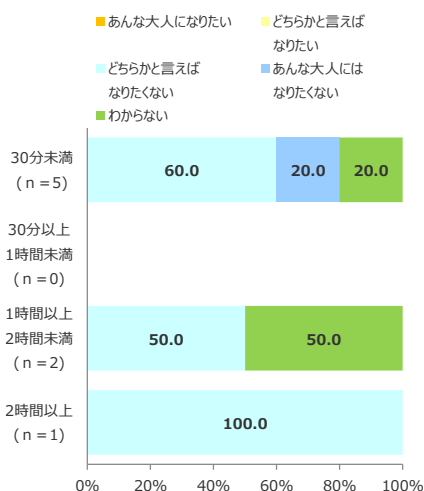
【図19.8】働いている父親を見てどのように感じているか
：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図19.9】働いている父親を見てどのように感じているか
：男性有職者の休日の子供との会話時間別



【図19.10】働いている父親を見てどのように感じているか
：男性無職者の毎日の子供との会話時間別



働く母親への憧れ

小学校5-6年生の子供に、働いている（※1）母親を見てどのように感じているかを聞いた。

母親に対して、「あんな大人になりたい・計」と憧れを持っている割合は、48.8%に上った（図20.1）。

子供の性別で見ると、男子よりも女子の方が「あんな大人になりたい」と感じている割合が高い。父親に対する「あんな大人になりたい」の回答割合の男女差が4.3ポイントだったのに対し、母親の同項目の男女差は12.4ポイントと大きくなっており、男子の父親に対する憧れよりも、女子の母親に対する憧れの方が強い（図20.2）。

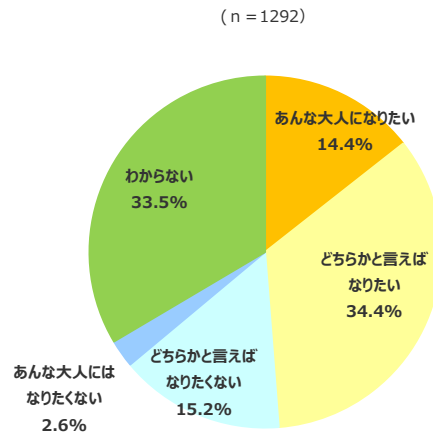
「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、母親の働く姿を「見たことがある」子供は、「あんな大人になりたい・計」が57.2%となり、「見たことがない」子供よりも16.6ポイント高くなっていた。父親に対する結果と同様に、「わからない」の回答割合も低くなっていた（図20.3）。

「大人調査：母親の仕事の充実度」との関係を見ると、母親の仕事が「充実している」家庭の子供は、「あんな大人になりたい・計」が55.7%と、「充実していない」家庭よりも26.1ポイント高くなっていた（図20.4）。

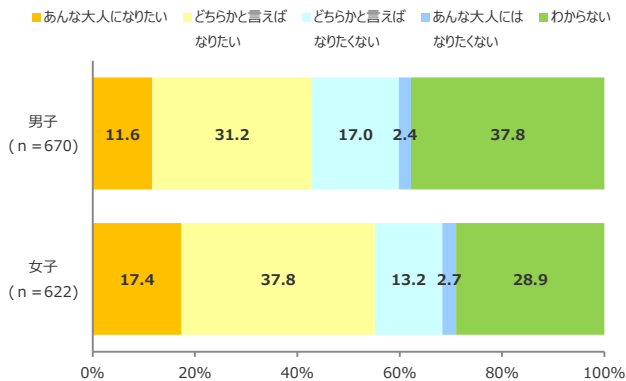
母親の就労状況別に見ると、「あんな大人になりたい・計」は、「正社員／自営業・個人事業主」では55.6%、「非正規雇用」では46.9%、「無職」では47.3%となっている（図20.5）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

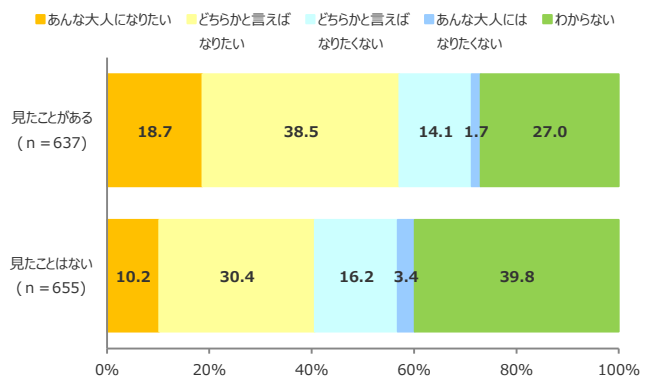
【図20.1】働いている母親を見てどのように感じているか



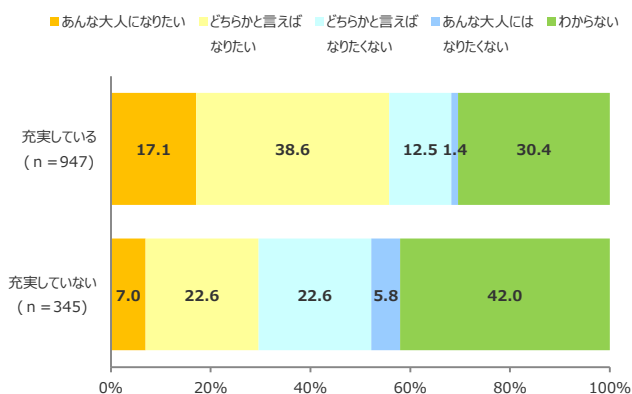
【図20.2】働いている母親を見てどのように感じているか：子供性別



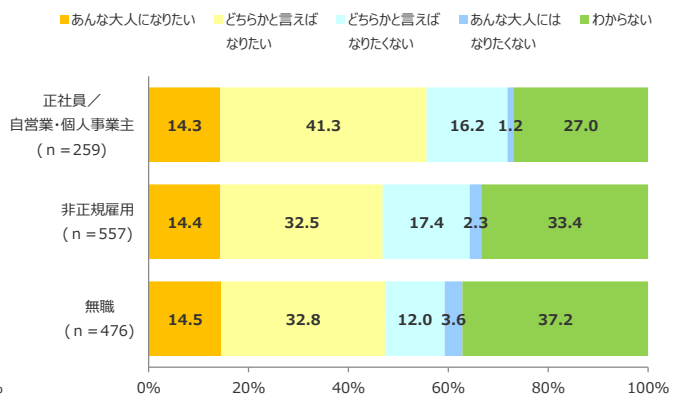
【図20.3】働いている母親を見てどのように感じているか：母親の働く姿（無職者も含む）を見たことがあるか別



【図20.4】働いている母親を見てどのように感じているか：母親の仕事の充実度別



【図20.5】働いている母親を見てどのように感じているか：母親の就労状況別

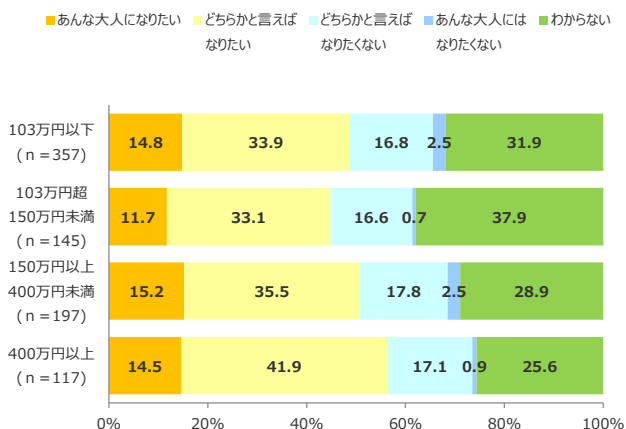


「大人調査：親の年収」との関係を見ると、母親の年収が「400万円以上」の場合に「あんな大人になりたい・計」が56.4%で最も高くなっていった（図20.6）。

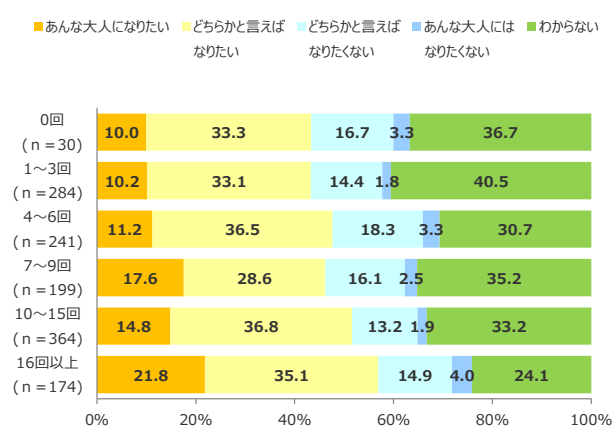
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、父親と同様に 食事回数が多くなるほど、「あんな大人になりたい・計」は概ね高くなる傾向にあった（図20.7）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職の女性の場合、子供との会話時間が「30分未満」だと、子供は「あんな大人になりたい」という回答はなく、強い憧れは抱きづらいようだ。とは言え、会話時間が30分以上になれば、5～6割の子供は「あんな大人になりたい（どちらかと言えば含む）」と回答している（図20.8、図20.9）。また、無職の女性の子供は、会話時間が長くなるほど、「あんな大人になりたい・計」は高くなっていく傾向がある（図20.10）。

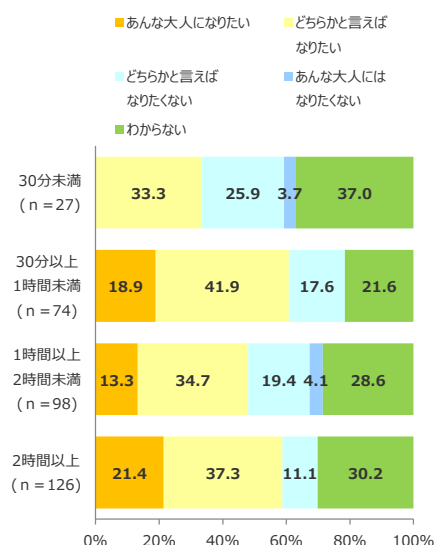
【図20.6】働いている母親を見てどのように感じているか
：母親の年収別



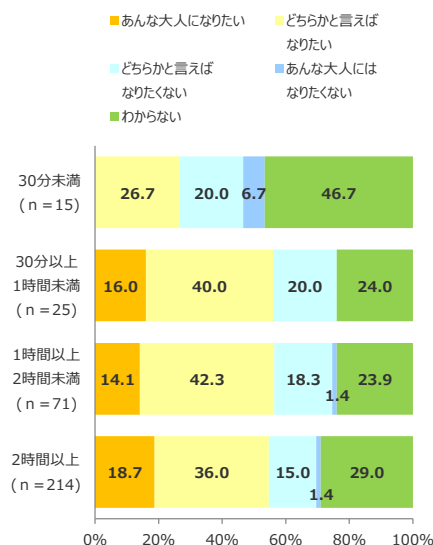
【図20.7】働いている母親を見てどのように感じているか
：家族揃っての食事回数別



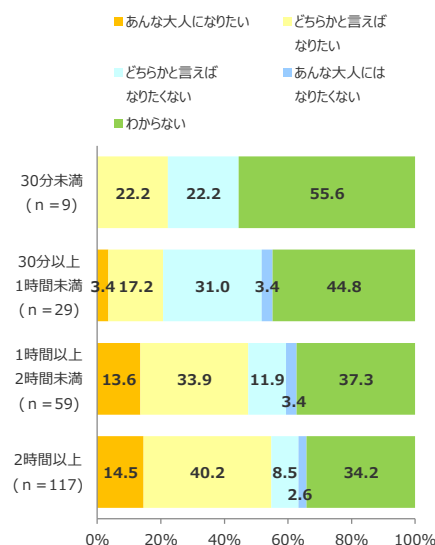
【図20.8】働いている母親を見てどのように感じているか
：女性有職者の労働日の
子供との会話時間別



【図20.9】働いている母親を見てどのように感じているか
：女性有職者の休日の
子供との会話時間別



【図20.10】働いている母親を見てどのように感じているか
：女性無職者の毎日の
子供との会話時間別



将来働くことは楽しみか

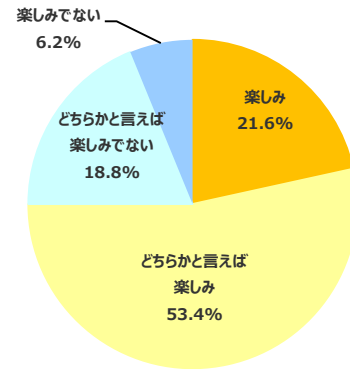
小学校5-6年生の子供に、将来働くことを楽しみに感じているかを聞いた。結果は、「楽しみ・計（「どちらかと言えば楽しみ」も含む、以下同）」が、75.0%に上った（図21.1）。

「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見た。父親の働く姿を「見たことがある」子供は「楽しみ・計」が81.2%、母親の働く姿を「見たことがある」子供は「楽しみ・計」が77.6%となり、それぞれ親の働く姿を「見たことがない」子供よりも高くなっていった（図21.2、図21.3）。

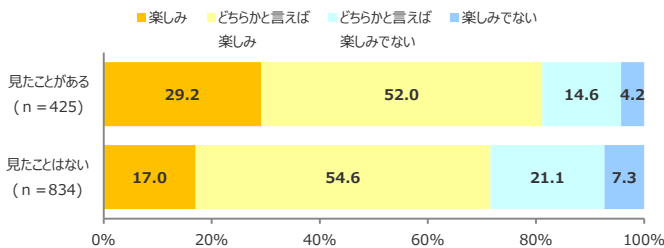
「子供調査：働く父親は楽しそうか」「子供調査：働く母親は楽しそうか」との関係を見た。父親の働く姿を「楽しそう」と感じている子供は「楽しみ・計」が85.9%、母親の働く姿を「楽しそう」と感じている子供は「楽しみ・計」が85.0%だった。それぞれ親の働く姿を「嫌そう」「わからない」と感じている子供よりも大幅に高くなっており、親の働く様子が子供にも伝わり、ポジティブな将来イメージを抱かせていることが感じられる（図21.4、図21.5）。

「大人調査：親の収入」との関係を見た。父親の収入が高くなるほど、将来働くことが「楽しみ」と回答する子供の割合が高くなっていく。一方、母親の収入は父親のような傾向は見られなかった（図21.6、図21.7）。

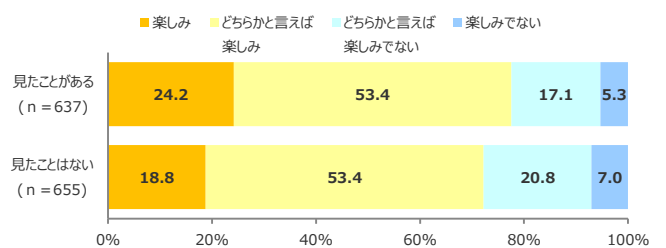
【図21.1】 将来働くことを楽しみに感じているか
(n = 1308)



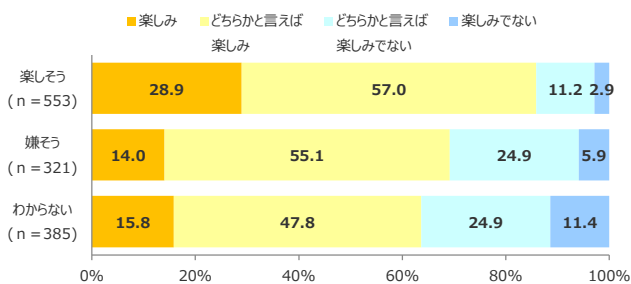
【図21.2】 将来働くことを楽しみに感じているか
：父親の働く姿（無職者も含む）を見たことがあるか別



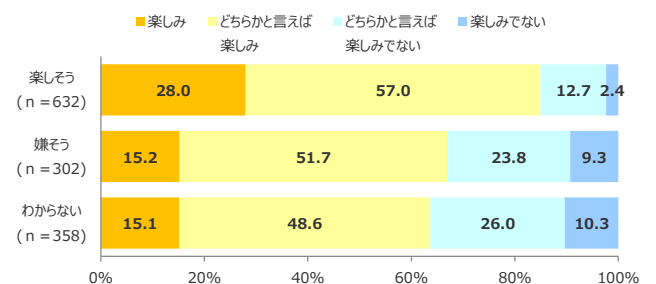
【図21.3】 将来働くことを楽しみに感じているか
：母親の働く姿（無職者も含む）を見たことがあるか別



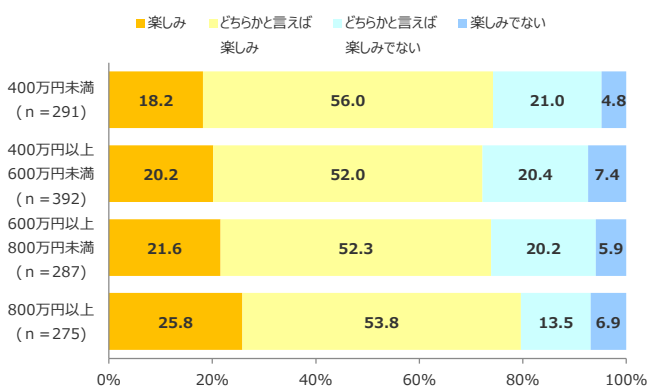
【図21.4】 将来働くことを楽しみに感じているか
：働く父親は楽しそうか別



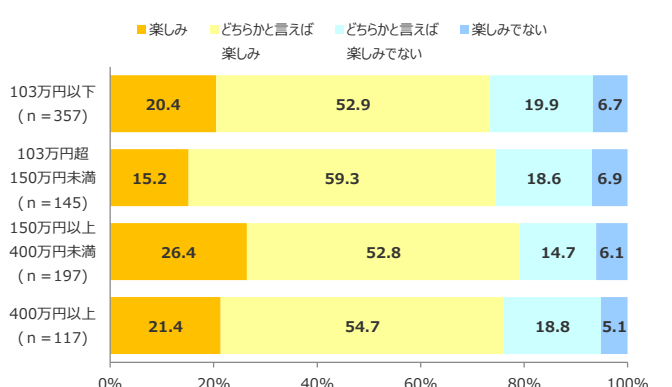
【図21.5】 将来働くことを楽しみに感じているか
：働く母親は楽しそうか別



【図21.6】 将来働くことを楽しみに感じているか：父親の年収別



【図21.7】 将来働くことを楽しみに感じているか：母親の年収別

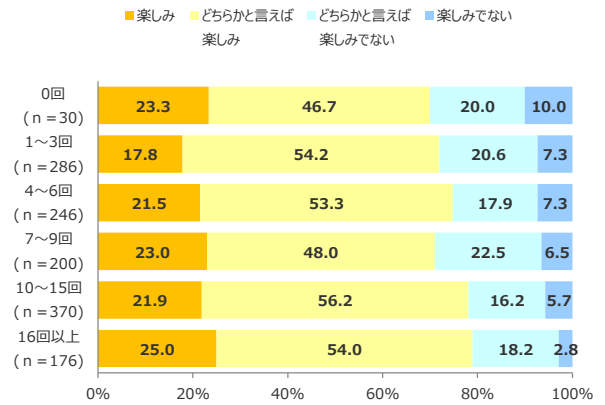


「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、食事回数が多くなるほど「楽しみ・計」が概ね高くなる傾向にある（図21.8）。

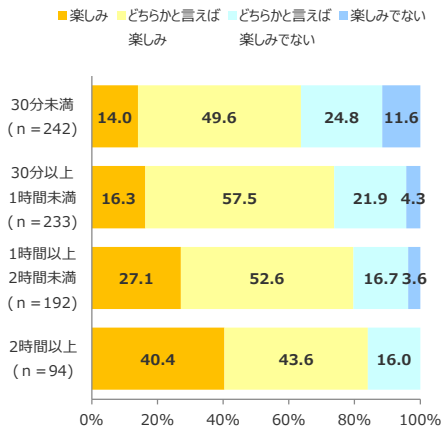
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見た。有職の男性では、会話時間が長い男性の子供ほど、将来働くことを「楽しみ」「どちらかと言えば楽しみ」と感じている割合が高くなる（図21.9、図21.10）。

有職の女性の場合、労働日においては会話時間が多くなるほど、「楽しみ・計」の割合が高くなっていく。休日や、無職の場合は、同様の傾向ではないものの、いずれも「2時間以上」会話をしている場合は、子供が将来働くことを「楽しみ」「どちらかと言えば楽しみ」と感じている割合が最も高くなっていった（図21.12、図21.13、図21.14）。

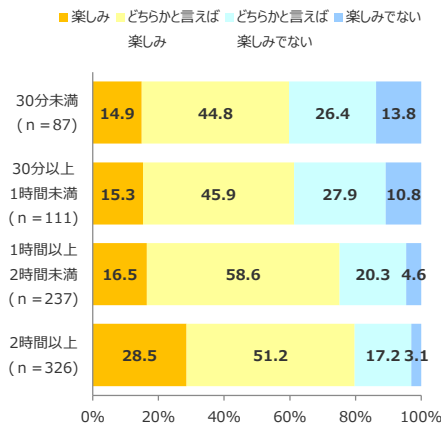
【図21.8】将来働くことは楽しみか：家族揃っての食事回数別



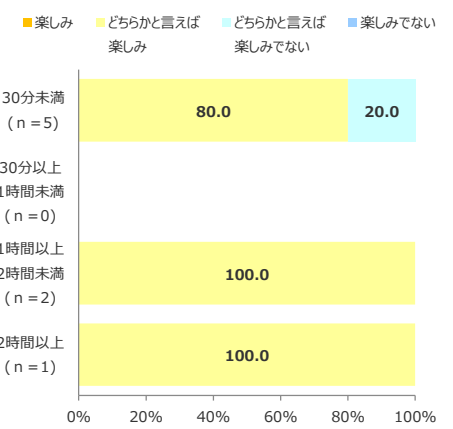
【図21.9】将来働くことは楽しみか：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



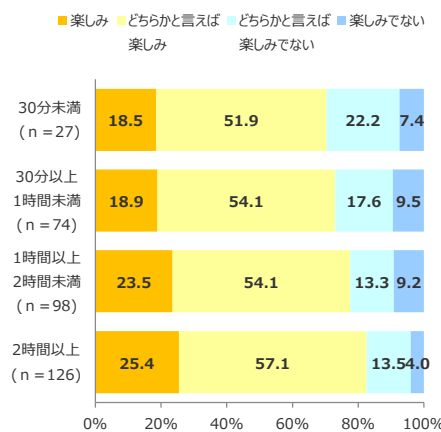
【図21.10】将来働くことは楽しみか：男性有職者の休日の子供との会話時間別



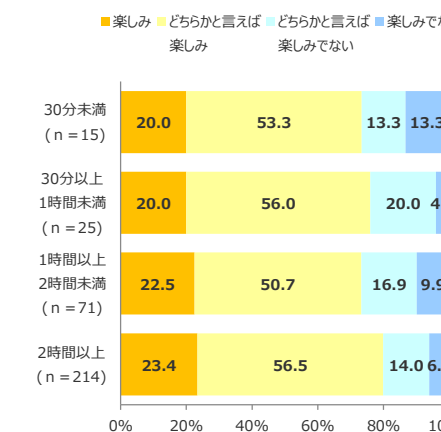
【図21.11】将来働くことは楽しみか：男性無職者の毎日の子供との会話時間別



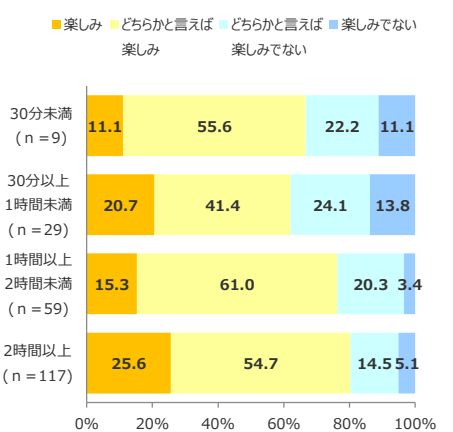
【図21.12】将来働くことは楽しみか：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図21.13】将来働くことは楽しみか：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図21.14】将来働くことは楽しみか：女性無職者の毎日の子供との会話時間別



将来の夢はあるか

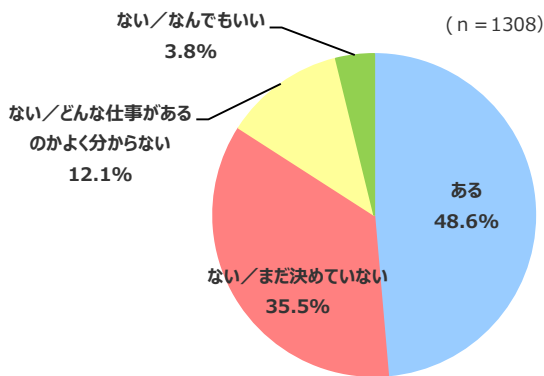
小学校5-6年生の子供に将来なりたい職業があるかを聞くと、「ある」と回答した子供は48.6%で半数に満たなかった（図22.1）。

子供の性別で見ると、女子の方が「ある」と回答した割合が高かった（図22.2）。

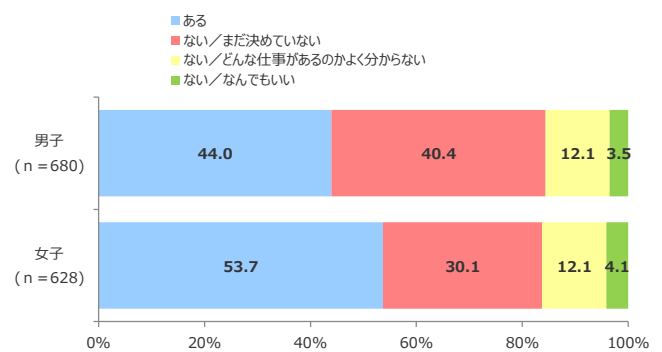
「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、父親または母親の働く姿を「見たことがある」家庭の子供は、将来なりたい職業が「ある」と回答した割合が5割を超え、「見たことがない」家庭の子供を1割前後上回っていた（図22.3、図22.4）。

「大人調査：父親の仕事の充実度」「大人調査：母親の仕事の充実度」との関係を見ると、父親または母親の仕事が「充実している」家庭の子供は、将来なりたい職業が「ある」割合が5割を超え、「充実していない」家庭の子供よりも高くなっていた（図22.5、図22.6）。

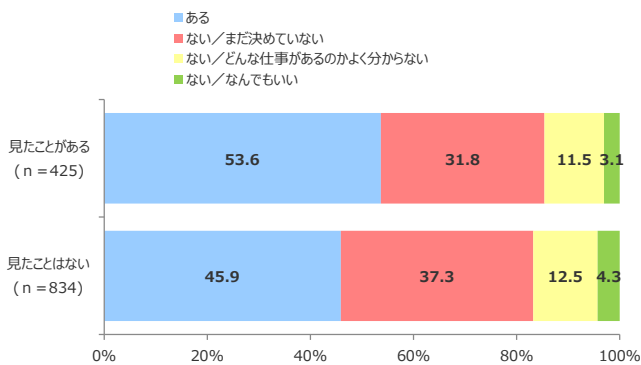
【図22.1】 将来なりたい職業はあるか



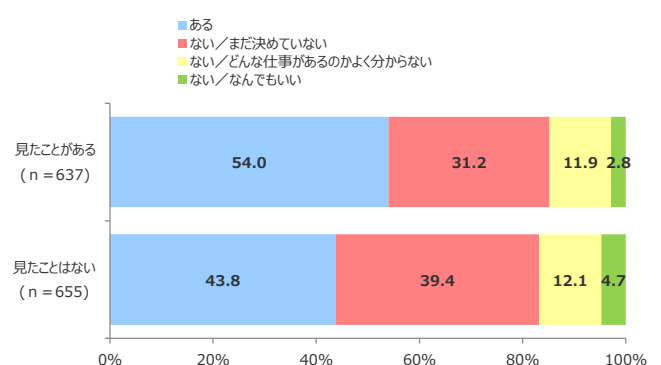
【図22.2】 将来なりたい職業はあるか：子供性別



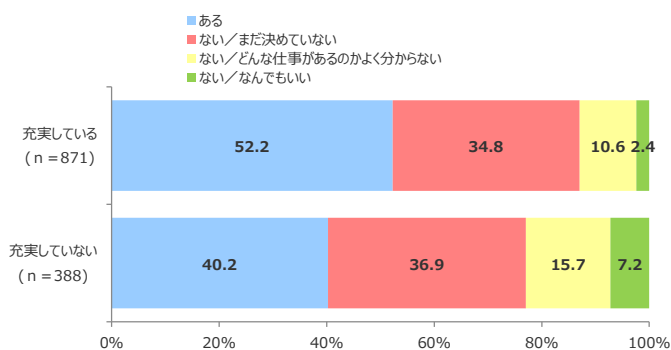
【図22.3】 将来なりたい職業はあるか
：父親の働く姿（無職者も含む）を見たことがあるか別



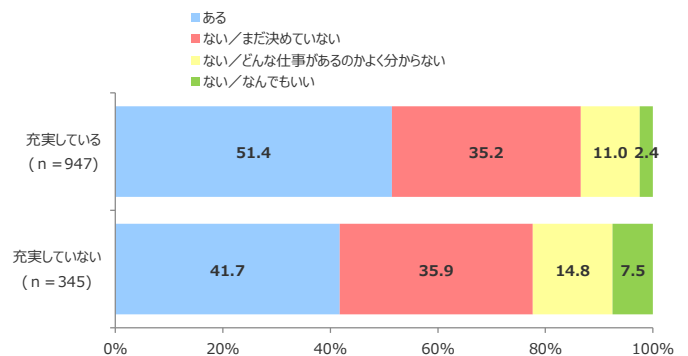
【図22.4】 将来なりたい職業はあるか
：母親の働く姿（無職者も含む）を見たことがあるか別



【図22.5】 将来なりたい職業はあるか：父親の仕事の充実度別



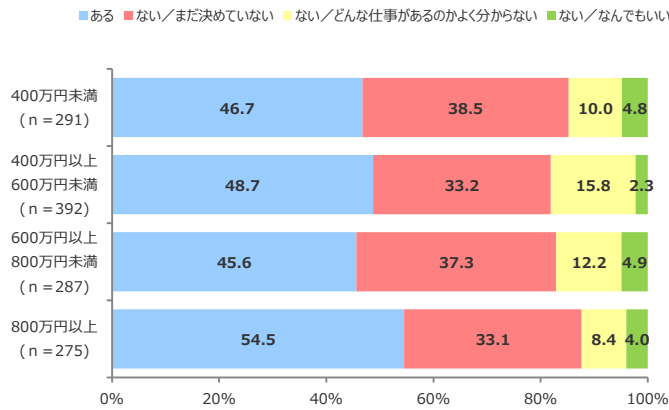
【図22.6】 将来なりたい職業はあるか：母親の仕事の充実度別



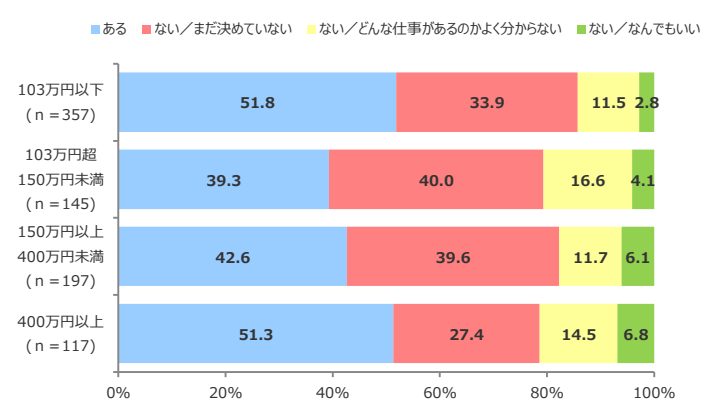
「大人調査：親の年収」との関係を見ると、父親の年収が「800万円以上」の場合に、将来なりたい職業が「ある」割合が54.5%と最も高くなる（図22.7）。一方、母親の年収では、「103万円以下」と「400万円以上」の場合に、それぞれ51.8%、51.3%と5割を超えて高くなっていった（図22.8）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見た。男性有職者においては、労働日でも休日でも子供との会話時間が長い男性の子供ほど、将来なりたい職業が「ある」子供の割合が高くなる。また、同じ会話時間数でも、休日よりも労働日の方が、将来なりたい職業が「ある」割合が高くなっていった（図22.9、図22.10）。女性有職者においても同様の傾向であった（図22.11、図22.12）。

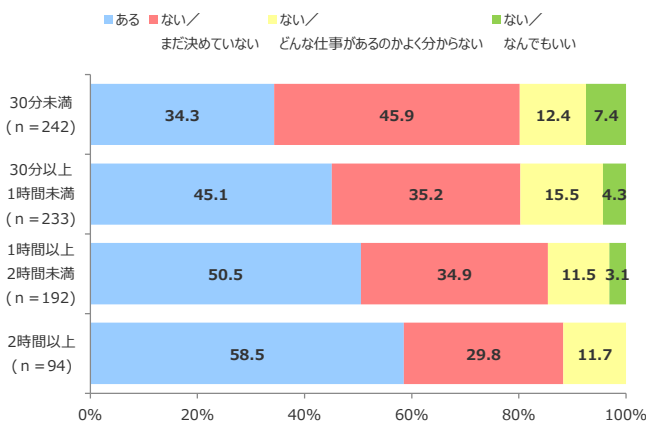
【図22.7】 将来なりたい職業はあるか：父親の年収別



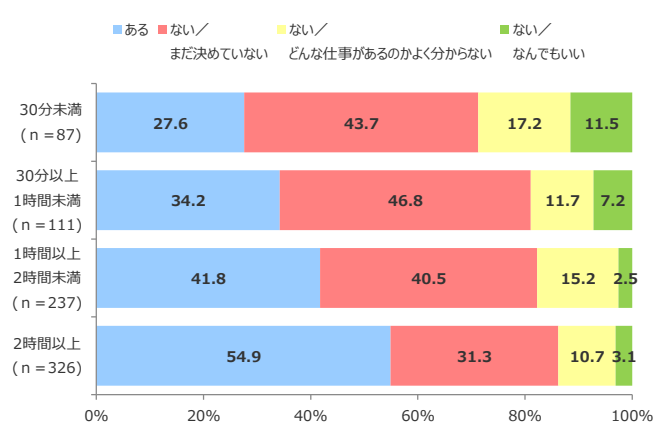
【図22.8】 将来なりたい職業はあるか：母親の年収別



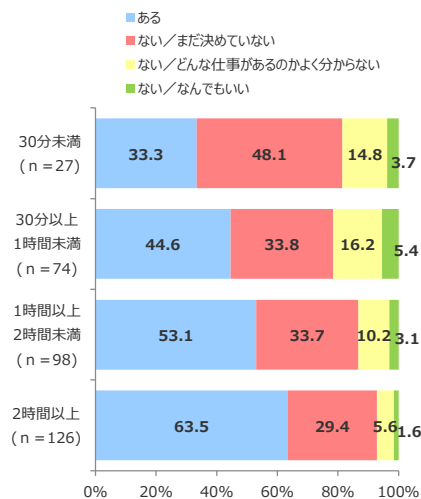
【図22.9】 将来なりたい職業はあるか：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



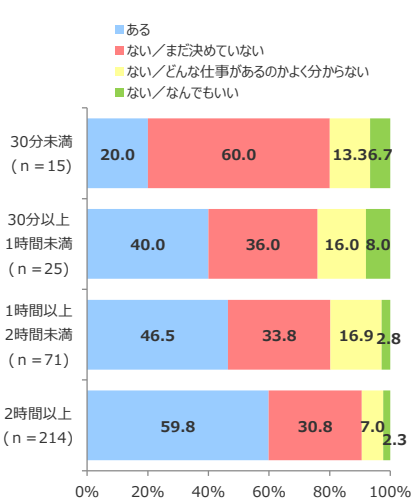
【図22.10】 将来なりたい職業はあるか：男性有職者の休日の子供との会話時間別



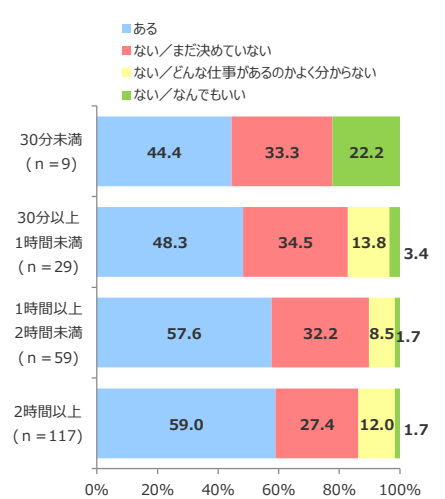
【図22.11】 将来なりたい職業はあるか：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図22.12】 将来なりたい職業はあるか：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図22.13】 将来なりたい職業はあるか：女性無職者の毎日の子供との会話時間別

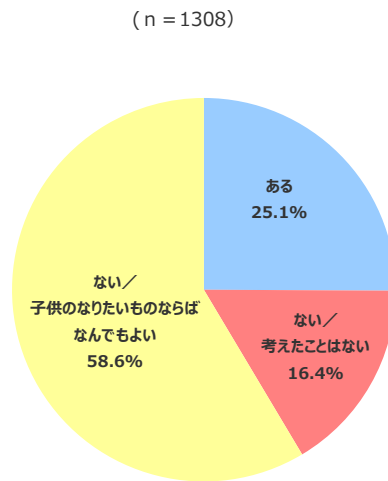


子供に将来なっしてほしい職業はあるか

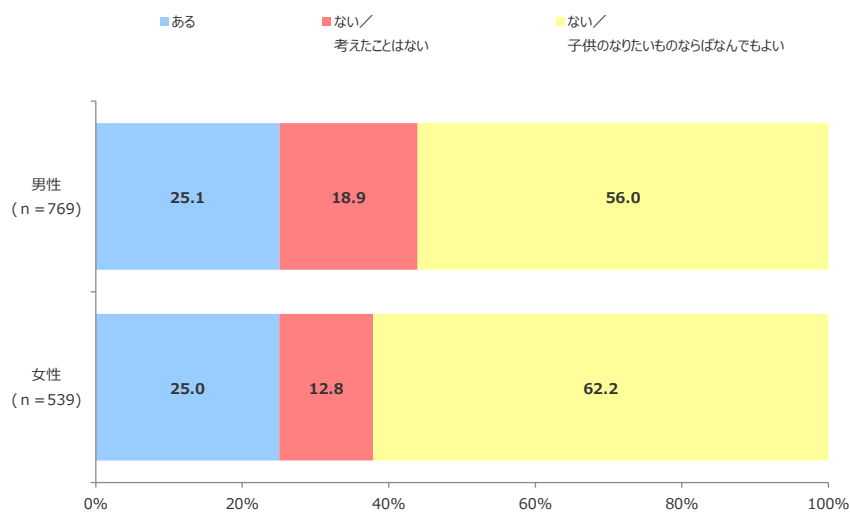
小学校5-6年生の子供がいる家庭に、子供に将来なっしてほしい職業はあるか聞いた。「ない/子供のなりたいものならばなんでもよい」と考える親が58.6%を占めていた。一方、「ある」と回答した親も25.1%いた（図23.1）。

大人の性別で見ると、「ある」の割合は男性と女性で変わらない。一方で、「ない/考えたことはない」は、男性が18.9%なのに対し女性は12.8%と低く、母親の方が、子供の将来について気にかけている様子が感じられる（図23.2）。

【図23.1】子供に将来なっしてほしい職業はあるか



【図23.2】子供に将来なっしてほしい職業はあるか：大人性別



将来なりたい職業

「子供調査：将来の夢はあるか」において、将来なりたい職業が「ある」と回答した小学校5-6年生の子供に、職業リストの中からあてはまるものを選んでもらった。

男子の順位を見ると、1位「サッカー選手」、2位「医者」、3位「運転手/車掌（車、バス、電車、新幹線等）」「野球選手」、5位「料理人」となっている（表24.1）。

女子の順位を見ると、1位「ケーキ屋・パティシエール」、2位「医者」、3位「看護師」、4位「保育士・幼稚園教諭」、5位「薬剤師」となっている（表24.2）。

※「その他」の回答者を除いて集計

【表24.1】将来なりたい職業はあるか：男子ランキング上位

NO	男子ランキング (n=235)	(%)
1	サッカー選手	11.9
2	医者	9.4
3	運転手/車掌 (車、バス、電車、新幹線等) 野球選手	7.7
5	料理人	4.3
6	ゲームクリエイター	3.8
7	その他スポーツ選手	3.4
7	Youtuber	3.4
7	整備士・機械エンジニア	3.4

【表24.2】将来なりたい職業はあるか：女子ランキング上位

NO	女子ランキング (n=283)	(%)
1	ケーキ屋・パティシエール	14.8
2	医者	11.0
3	看護師	9.2
4	保育士・幼稚園教諭	5.7
5	薬剤師	5.3
6	教師 (小学校、中学校、高等学校)	3.9
7	漫画家・イラストレーター	3.5
8	獣医	3.2
9	ファッションデザイナー	2.8
10	学者・研究者	2.5

子供に将来なってほしい職業

「大人調査：子供に将来なってほしい職業はあるか」において、子供に将来なってほしい職業が「ある」と回答した者に、職業リストの中からあてはまるものを選んでもらった。

順位を見ると、1位「医者」、2位「公務員※消防士・警察官・自衛隊等除く」、3位「薬剤師」、4位「看護師」、5位「教師 (小学校、中学校、高等学校)」となっている（表25）。

上の「子供調査：将来なりたい職業」と比較すると、「医者」などは上位で共通するものの、子供が考えている夢よりも、高収入や安定が見込める職業など、より現実的な職業を親は望んでいるようだ。

※「その他」の回答者を除いて集計

【表25】子供に将来なってほしい職業：親ランキング上位

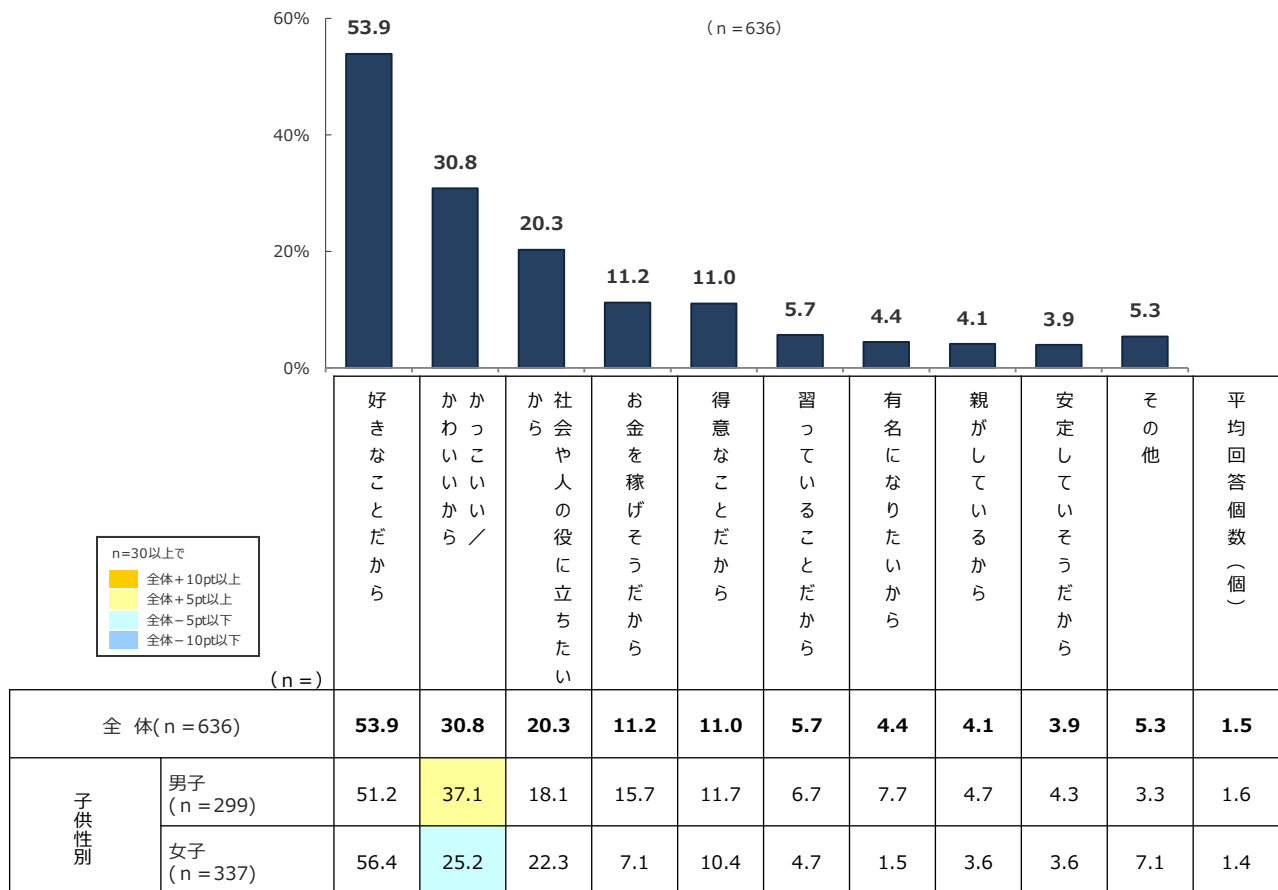
NO	親ランキング (n=290)	(%)
1	医者	16.9
2	公務員 ※消防士・警察官・自衛隊等除く	10.0
3	薬剤師	7.2
4	看護師	5.5
5	教師 (小学校、中学校、高等学校)	4.5
6	経営者	4.5
7	学者・研究者	4.1
8	サッカー選手 会社員 (事務系) ※銀行員・金融関連職除く	3.8
10	理学療法士・作業療法士	2.8

将来その職業になりたい理由

「子供調査：将来の夢はあるか」において、なりたい職業が「ある」と回答した小学校5-6年生の子供に、なぜその職業に就きたいのか理由を聞くと、1位「好きなことだから」53.9%、2位「カッコいい/かわいいから」30.8%、3位「社会や人の役に立ちたいから」20.3%だった。

子供の性別で見ると、男子は「カッコいい/かわいいから」が37.1%と女子よりも11.9ポイント高い。また、「お金を稼げそうだから」も、女子の2倍以上の回答割合となり、性別によってモチベーションも異なっているようだ（図26）。

【図26】 その職業に将来なりたいと思う理由

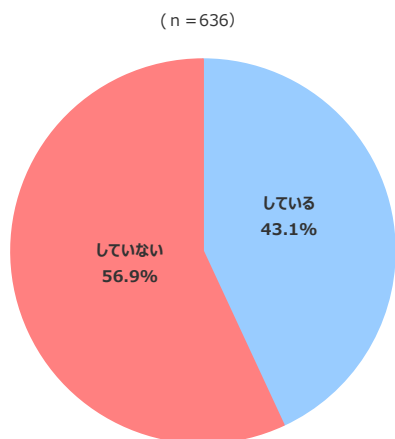


将来なりたい職業に就くための努力

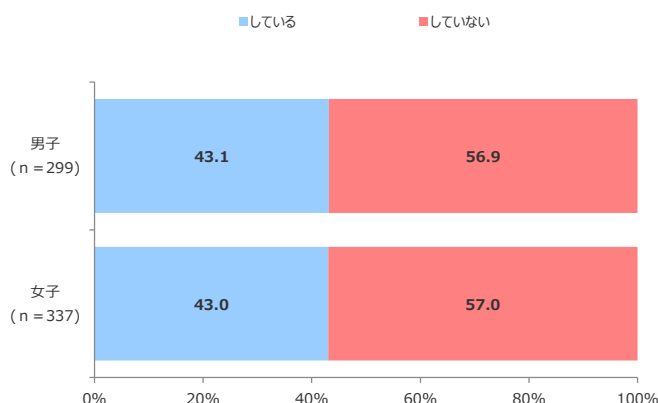
「子供調査：将来の夢はあるか」において、将来なりたい職業が「ある」と回答した小学校5-6年生の子供に、将来なりたい職業に就くために何か工夫や努力をしているかを聞くと、43.1%の子供が「している」と回答した（図27.1）。子供の性別で見ると、男女で差は見られなかった（図27.2）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見た。男性有職者の場合、労働日と休日のいずれとも子供との会話時間が「2時間以上」になると、将来なりたい職業に就くために工夫や努力を「している」子供の割合が最も高くなる（図27.3、図27.4）。女性の場合は、就労状況や会話時間による傾向はあまり見られなかった（図27.5、図27.6、図27.7）。

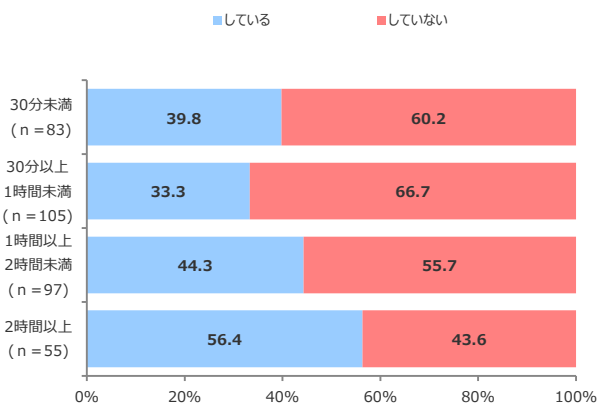
【図27.1】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか



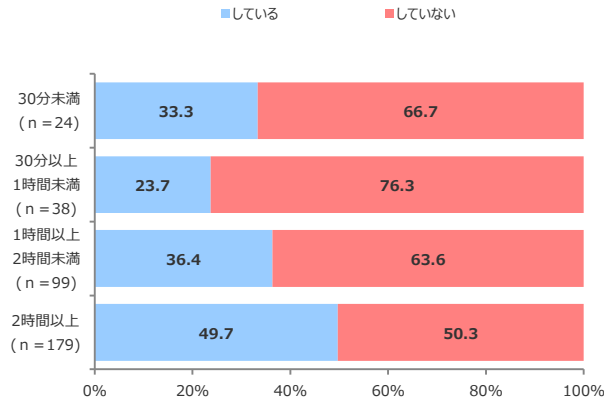
【図27.2】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか：子供性別



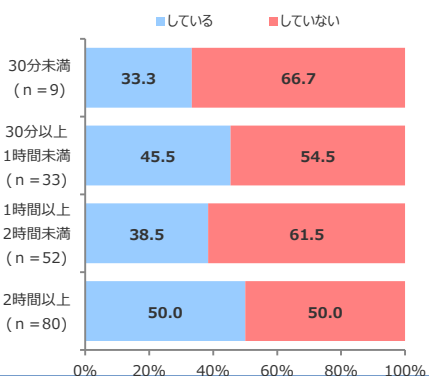
【図27.3】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



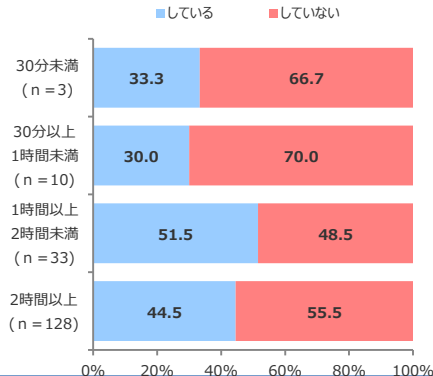
【図27.4】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか：男性有職者の休日の子供との会話時間別



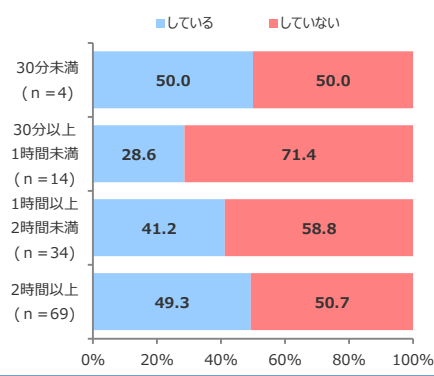
【図26.5】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図26.6】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか：女性有職者の休日の子供との会話時間別



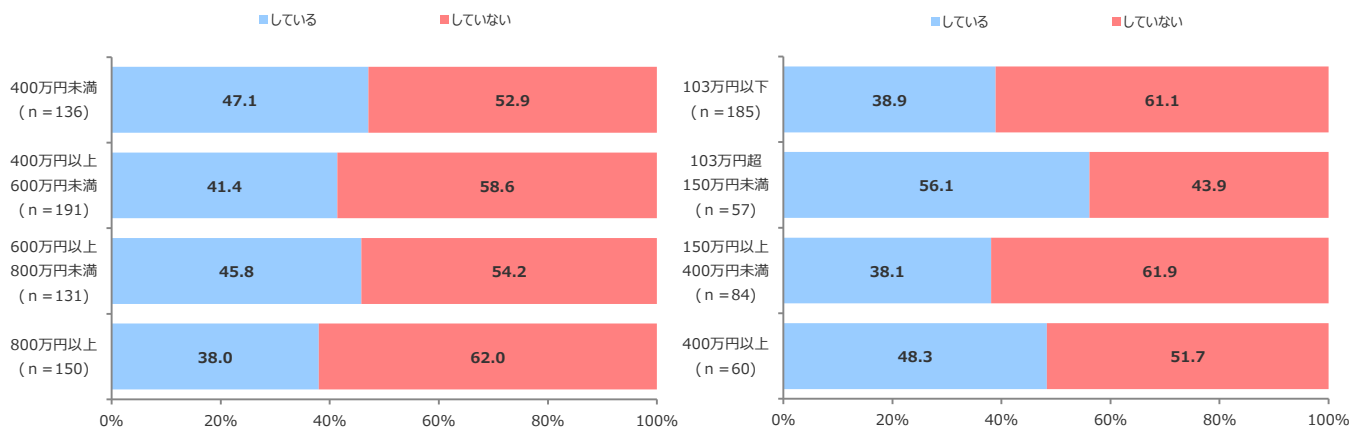
【図26.7】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか：女性無職者の毎日の子供との会話時間別



「大人調査：親の年収」との関係を見ると、父親の年収が「400万円未満」の家庭において、将来のための工夫や努力をしている子供の割合が高くなっていった（図27.8）。母親の年収では、「103万円超150万円未満」の家庭において、将来のための工夫や努力をしている子供の割合が高くなっていった（図27.9）。

【図27.8】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか
：父親の年収別

【図27.9】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか
：母親の年収別



【自由回答】 () 内は学年・性別・将来なりたい職業

- 路線図を書いたり、電車の事を調べています。(小5男子 運転手/車掌<車、バス、電車、新幹線等>)
- ユーチューブに動画をアップしてる。(小5男子 YouTuber)
- 週に一度スクールに通い、放課後や休日には自主練をしている。(小5男子 その他スポーツ選手)
- 母や祖母に料理を教わっている。(小5男子 料理人)
- 新聞に載っている歴史の記事を切り抜いて保存したり、お小遣いで歴史の本を買ったり、旅行先も歴史にゆかりのある場所へ行くようにしている。(小5女子 学者・研究者)
- 下級生のお世話を積極的にしている。(小5女子 保育士)
- お菓子を作ったり、本を読んでいる。(小5女子 ケーキ屋・パティシエール)
- お友達の髪の毛を毎日結んであげている。ヘアメイクの練習ができる人形で練習している。(小6女子 美容師・理容師)
- 絵やストーリーを描いたり作ったりしている。(小6男子 漫画家・イラストレーター)
- 社会の勉強を頑張っている。(小6女子 作家・小説家)
- 将来のために中学受験目指して勉強している。(小6男子 弁護士・検事・裁判官)

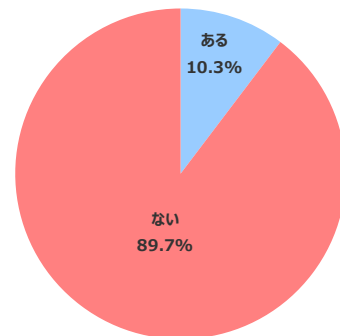
家庭で行なっているキャリア教育

小学校5-6年生の子供がいる家庭に、キャリア教育として家庭で意識して行なっていることはあるか聞いた。「ある」は10.3%で、9割の家庭では特に何も行なっていなかった（図28.1）。

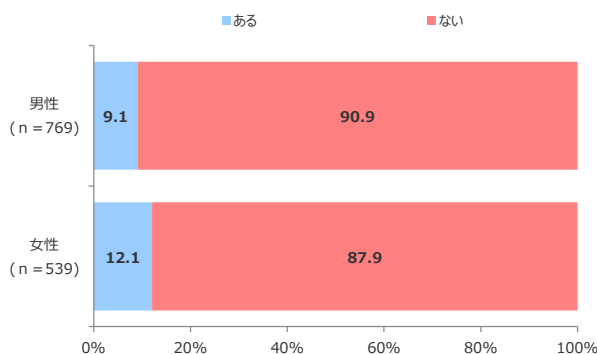
大人の性別で見ると、母親の立場である女性の方が「ある」の割合がやや高い（図28.2）。

「子供調査：将来の夢はあるか」との関係を見ると、将来の夢が「ある」と回答した子供の家庭では、親がキャリア教育を意識して行なっていることが「ある」と回答した割合が16.0%と、将来の夢が「ない」と回答した子供の家庭よりも大幅に高くなっていた（図28.3）。

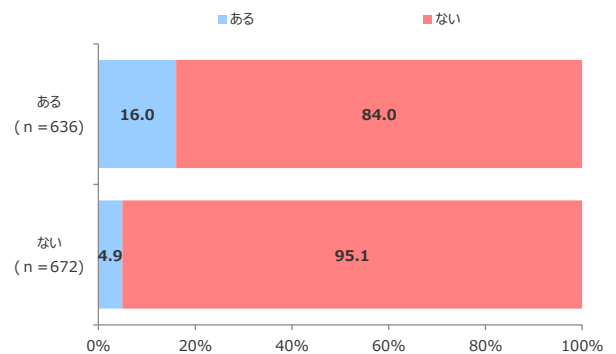
【図28.1】キャリア教育として、家庭で意識して行なっていることはあるか
(n = 1308)



【図28.2】キャリア教育として、家庭で意識して行なっていることはあるか
：大人性別



【図28.3】キャリア教育として、家庭で意識して行なっていることはあるか
：将来の夢はあるか別



【自由回答の一部】

- キャリア教育ではないですが、子供が興味を持ったことは些細なことでもそこで終わらせないようにと思っています。河原の小さな石ひとつにしても、そこから学べることはたくさんありますし、小さなきっかけから夢も広がると思っています。
- 全てではないが、世の中で話題になっている主要ニュースを伝えている。
- 掃除、洗濯など身の回りのことができるように就学前からさせ、どうすれば早く楽にできるか考える練習をさせている。
- 普段の何気ない話でもよく聞く。一緒に笑う。スポーツと勉強のバランスをとれるよう努める。
- 定期的にミーティングを行い、本人が何を関心を持ち、何を感しながら過ごしているかを聞く場にしている。
- 「本当にやりたいことを早く見つけろ。それに向かってなら本気で勉強ができるし、楽しくできる」「本当にやりたいことが、仕事であつたらこんなに幸せなことはない」「自分で仕事を作っていくと自分の責任でできる」「人に雇われるということは、したくない仕事でもやらなければならないことが多い」など、機会があるとき伝えている。
- 色々な経験をしてもらいたい。何でもよいから1つ好きな教科を頑張ってもらいたい。
- 時間や期限を守ることを大切にする。物事に優先順位を立てて段取りを組む力をつけられるようにアドバイスし、見守りを行っている。

親の働く姿を見せることの是非

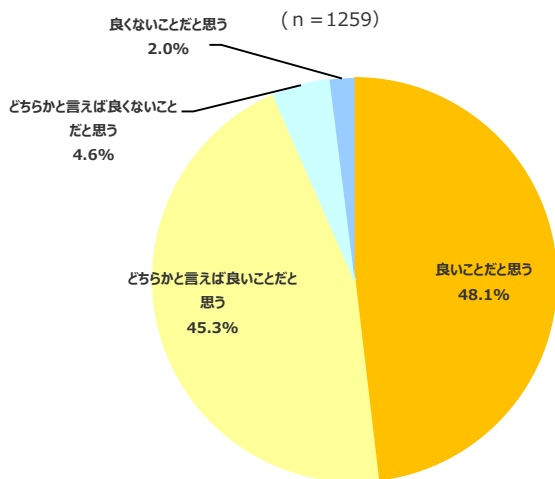
小学校5-6年生の子供がいる家庭に、子供に親の働く姿（※1）を見せることは良いことだと思うかを聞いた。

子供に、父親の働く姿を見せることについて「良いことだと思う」が48.1%、「どちらかと言えば良いことだと思う」が45.3%で合わせて93.4%が肯定的に捉えていた（図29.1）。親の性別で見ると「良いことだと思う」の割合は女性58.2%、男性41.7%となっており、母親の方がより強い肯定感がある（図29.2）。

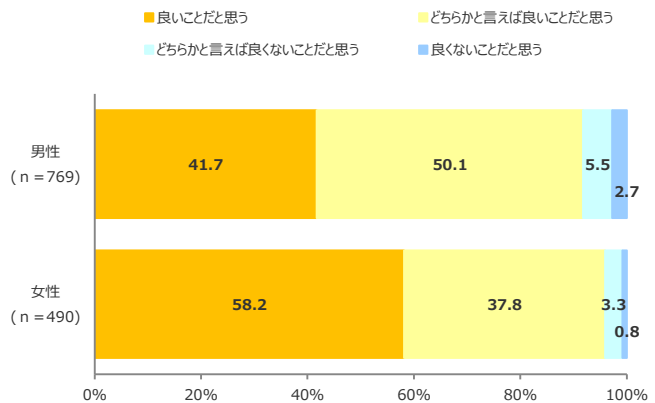
子供に母親の働く姿を見せることについては、「良いことだと思う」49.0%、「どちらかと言えば良いことだと思う」45.0%で、肯定的な意見が計94.0%に上った（図29.3）。親の性別では、父親の場合と同様に、女性の方が「良いことだと思う」の回答割合が高くなっていた（図29.4）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

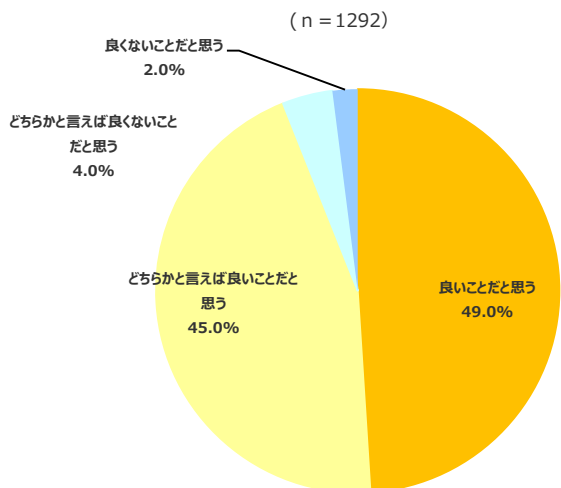
【図29.1】父親の働く姿を見せることは良いことだと思うか



【図29.2】父親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：大人性別



【図29.3】母親の働く姿を見せることは良いことだと思うか



【図29.4】母親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：大人性別

